



神戸大学 発達科学部

Faculty of Human Development



発達科学部の魅力

発達科学部は、
人間の発達を多面的にとらえ、
それを支える環境を創造する学部です。

人は、生まれた瞬間から発達を始めます。子どものときはもちろん、歳をとっても、健常な人も障がいをもつ人も、さまざまな学びをとおして、それぞれが潜在的にもつ多彩な能力を顕在化させていきます。こころやからだも発達します。表現力や行動力も、そして人々が織りなす人間関係やコミュニティも発達します。

人の発達を支えているのが、環境です。環境には、自然や社会、生活や情報など、さまざまな要素が複雑に絡み合っています。環境は、ときには地球生態系、国際政治、インターネット空間のようにグローバルに展開します。ときには地域景観、コミュニティ、都市空間、地方文化のようにローカルに立ち現れます。

人は、環境のなかで発達します。そして人は発達することを通して、たえず新たな環境を創造しています。発達と環境は、人が「善き生

(well-being)」を実現するためのメビウスの輪のような不思議な舞台です。

発達科学部では、文系・理系、理論系・実践系、基礎系・応用系を問わず、いろいろな学問的知見を総動員して、人間の発達とそれを支える環境を研究しています。そのため、きわめて多岐にわたる専門の教員・学生・研究者が結集し、たえず密接に交流し、互いに知的・人間的な刺激を与えあっています。

発達科学部は、未来に向けて多彩な発達を遂げていく学生を支え、同時にその発達によってつねに再構築されつづけるユニバーサルな環境です。



発達科学部で何を学ぶか

人間の発達とそれを支える環境を捉えるための
高い専門的知見と統合的な思考力を備え、
新たな実践知の創造を担う先導的人材を育てます。

①高い専門性 と 統合的な思考力

人間の発達や環境は、従来の教育学・心理学・社会諸科学・自然諸科学といった学問領域では、それぞれ一面的にしかとらえることができません。

発達科学部では、発達・環境に関する高度な専門性を学ぶとともに、古い学問領域の壁を乗り越え、多様な専門性を統合する広い視野と強靱な思考力を育成します。

21世紀の先導的人材には、高度な専門性だけでなく、広い視野をもち、多彩な分野の専門家と協働できる柔軟な理解力、強靱な思考力が求められます。



②深い洞察力 と ユニークな創造力

発達やそれを支える環境を創造するには、人間についての深い洞察と自由な発想が不可欠です。

発達科学部では、客観的な知識・分析能力だけでなく、人間の多様な生き方・価値観・主体性・個性・感情を尊重し、それらを深く洞察する能力を育てます。

また、学問や方法論の多様性、価値観や認識の違いを寛大に認めあい、自由闊達な議論を通して、ユニークな知的創造力を育成します。



③豊かな教養 と 実践的な問題解決能力

人間の発達と環境に関する学習・研究は、「善き生(well-being)」のための実践と深く結びついています。

「善き生」を実現するには、豊かな教養とともに、実際に人々が直面するさまざまな諸問題を具体的に解決していく能力が求められます。

発達科学部では、教育、心理、身体、健康、芸術表現、生活、情報、自然、社会にかかわる多様な諸領域において、具体的・実践的な知識や技術を学びます。

発達科学部の求める学生像

発達科学部では、乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを取り巻く環境について、様々な側面から教育研究を行っています。そして、人間の発達や環境に関する諸問題をとらえ、解決するための専門的知見と問題解決能力を養成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- 人間の発達やそれを取り巻く環境に興味をもち、人間形成、人間行動、人間表現、人間環境のいずれかの視点から、新しい学問領域を開拓する意欲のある学生
- 人間の発達や環境に関する現代的課題に主体的にかかわることを希望する学生
- 高等学校等までの基礎的学力を幅広く身につけており、専門的な知識を積極的に学んでいける学生
- 自ら問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生

発達科学部でどのように学ぶか

カリキュラムの4大特徴

①多様性と統合性が車の両輪。

発達科学部は、4学科・13コースを配置し、極めて多彩な領域の専門教育を展開しています。発達科学部で年間に開講される専門授業科目数は500以上に及びます。また多様な科目を有機的に結びつけ、統合的な思考力を培うため、特別のカリキュラムも用意されています。

1年次には、発達科学にかかわる根本的な課題を広い視野から学ぶ学部共通科目「発達科学への招待」があります。また各学科では、その課題に取り組む上で必要な基礎学力を身につける学科共通科目が数多く設定されています。

2年次からは、希望するコースに進み、豊富な専門科目をととして具体的・実践的な知識を習得します。

3年次には、どの学科からでも進むことができる学科横断型の「発達支援論コース」が設置されています。

多様性・異質性を尊重し、しかも人間の発達とそれを支える環境の創造という統合の軸を明確にしている点が、発達科学部のカリキュラムの第一の特徴です。

②徹底した少人数・対話型教育／主体的に学び、師・友と出会う。

発達科学部では、徹底した少人数・対話型教育が行われています。授業の70%以上が40名以下、45%が20名以下の受講者です。そこで、グループワーク、ディスカッション、ディベート、課題研究、ロールプレイなどが活発に取り組まれています。ゼミナールでは、教員1人に対し、学生5名前後といった恵まれた教育環境で、きめ細かい指導、双方向的なコミュニケーションがなされています。

学生は、こうした教育のなかで、主体的・能動的に自ら学び、判断する能力、問題発見能力、効果的なプレゼンテーション能力、柔軟な理解力、ディスカッション能力を高めることができます。

必修の卒業研究では、きめ細かい指導の下、学生自身が設定したテーマを自由に研究し、論文にまとめて発表します。

発達科学部のカリキュラムの第二の特徴は、徹底した少人数・対話型教育で、主体的・双方向的な学びを重視していることです。



③実践的能力の涵養／現場とともに歩む。

発達科学部は、社会とのつながりを大切にし、実践的な問題解決能力を高める教育を実施しています。

そこで、フィールドワーク、体験学習が活発に行われています。学外で活躍する人を招き、特別な体験や知見、技術を直接伝える「ゲスト・スピーカー制度」もあります。希望する学生は、各種ボランティアに参加できる機会も多く、さまざまな現場で学ぶことができます。

韓国、フィリピン、中国、バングラディシュ等の大学やNPOと共同して調査研究・学生交流を行う「スタディー・ツアー」も毎年、実施しています。

阪神淡路大震災被災地にある大学・学部として、同じ被災地である東北地方との連携・協働も活発に進めています。

学部横断型の「神戸大学ESD (Education for Sustainable Development) コース」も、実践活動への参画(アクション・リサーチ)をととして「持続可能な社会づくり」に資する人材を育成する個性的なカリキュラムです。

現場をふまえ、実践的な問題解決能力を養成することが、発達科学部のカリキュラムの第三の特徴です。

④未来を創造する／人生のプラットフォーム。

発達科学部では、学生が自らの将来を主体的に創造していくことを重視し、これを支援する教育が行われています。

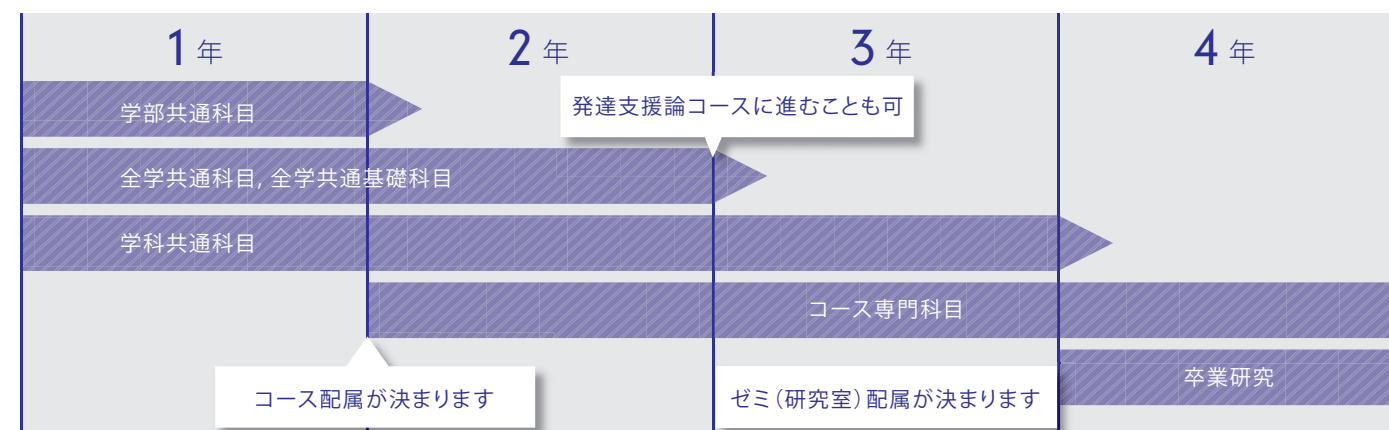
1年次には学科単位で幅広く学び、2年次にコースを選択し、3年次・4年次とさらに専門的なゼミナールや研究室に所属します。つまり学年進行とともに段階的に、学生自身が学びたい専門領域を自ら選択し、問題意識を明確にしていきます。

そこで、すでに将来の進路や専門をはっきりと決めて入学する学生は、視野を大きく広げながら、着実に免許・資格等を取得し、将来の夢に向かって歩むことができます。

一方、まだ自分の将来を模索している学生は、広い視野・多彩な専門領域と触れ、多様な価値観をもつ仲間・教員と語り合いながら、将来、自分が進む道をじっくり考え、選んでいくことができます。

発達科学部のカリキュラムの第四の特徴は、学生が「善き生 (well-being)」を自ら追求するための、プラットフォームであることです。

カリキュラムの特色



人間形成学科

人としての育ちを「発達」と「教育」から探究する

学科の理念

人間の誕生から高齢期に至るころ及び諸能力の発達並びに人間形成に関わる諸要因について、社会的及び文化的な観点から教育研究を行い、教養並びに心理、発達、教育及び学習に係わる専門的な知識を身に付けた人材を養成することを目的とします。

学科の特色

社会と歴史の中で 発達する人間の姿を捉える

人は相互に支え合いながら成長・発達しています。文化とは、そのような社会的関係の歴史的な所産です。人間形成学科では、社会と歴史の中で生活している人間(子ども)の心や身体の発達、自然認識や社会認識の発達、言語や芸術表現の発達などを探究しています。また、人間(子ども)の発達を支える社会システムの歴史や制度について、学校教育と深く結びつけて探究しています。



人間の発達と支援の関係を 総合的に捉える

人間(子ども)の発達には前進だけでなく、停滞も退行もあります。それが私たちの発達の実相です。したがって、発達を支援する方法やシステムを考える場合には、問題を幅広い視点と時間軸で捉え、総合的に取り組んでいく必要があります。人間形成学科では、4つのコースが有機的に結びついて、人間(子ども)の発達とその支援のあり様を総合的に分析し、具体的かつ実践的に探究しています。

教員志望の学生の強い味方になる

人間形成学科は、人としての育ちを「発達」と「教育」から探究する学科ですが、とくに「学校教育」との強い結びつきを特色としています。幼稚園、小学校、特別支援学校の教師を目指す人には、これらの学校の教員免許状の取得に特別に配慮したコース(学校教育論コース)が用意されています。そこでは、他コースの科目も学ぶことで、すぐれた教師へと旅立つ資質が養成されています。



履修コース

人の「心の発達」を、様々な側面から科学的に探究する

心理発達論 コース

定員:30名

▶P16



乳幼児から青年期の子どもを対象に、子どもの教育と発達を総合的に学ぶ

子ども発達論 コース

定員:20名

▶P18



教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう?

教育科学論 コース

定員:20名

▶P20



小学校、幼稚園および特別支援学校の教諭の免許を取得しよう

学校教育論 コース

定員:30名

▶P22



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・学芸員*
- ・社会福祉主事任用資格*
- ・小学校教諭一種免許状
- ・社会教育主事*
- ・環境再生医資格*
- ・特別支援学校教諭一種免許状

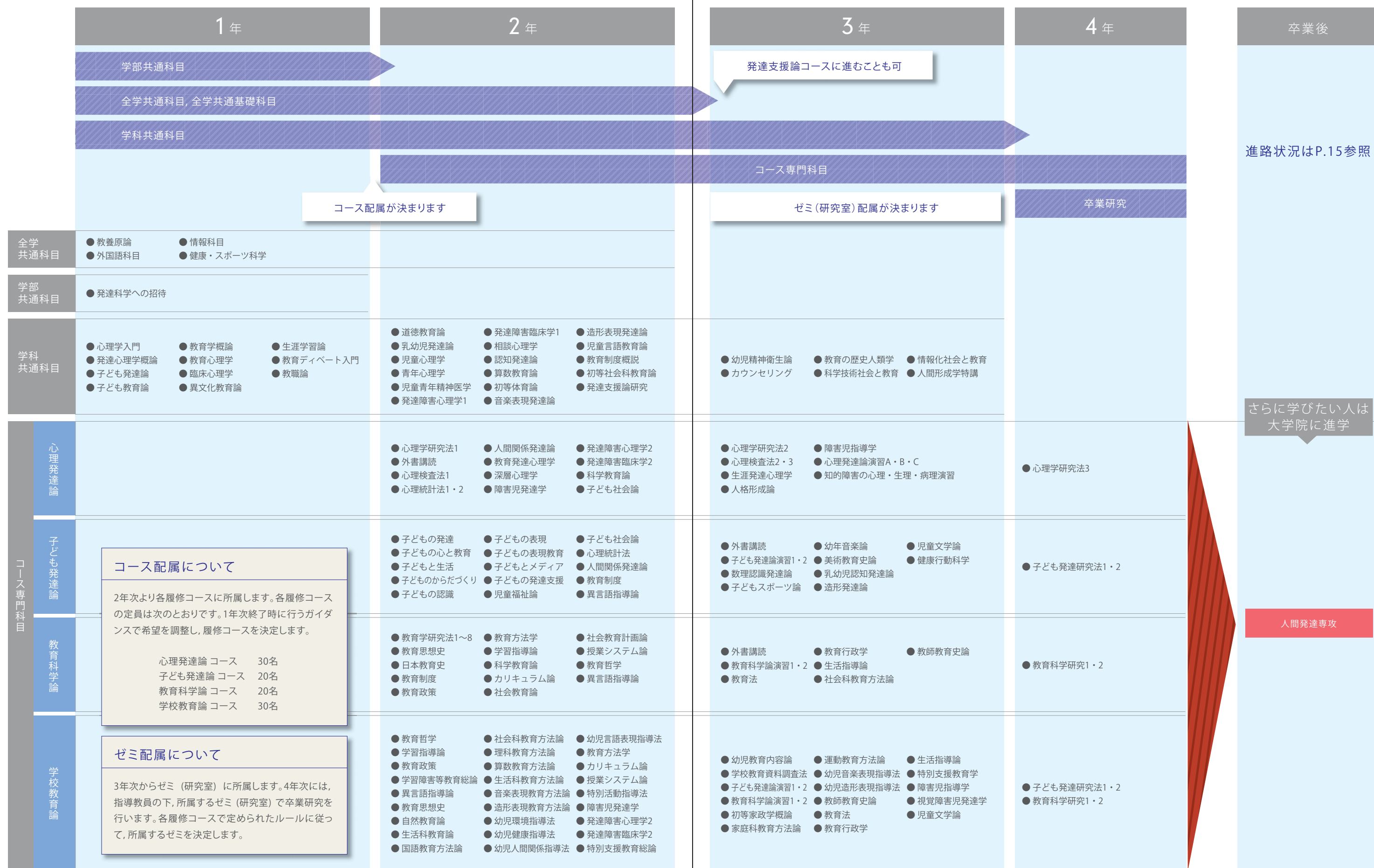
学科長からのメッセージ

学科長 稲垣 成哲教授
(教育科学論コース)

人間形成学科では、人が生活の中で相互に支え合いながら、人として育ち、育てられていくプロセスを理論的、実証的に探っていきます。人は一生の間に、いろいろな世界やたくさんの人たちと出会い、「新しい自分」をつくりあげていきます。私たちは、いつの間にか能力や価値観を身につけているように思いますが、実際には、そこには、さまざまな発達のメカニズムがはたらいているのです。また、人間の発達は、社会や文化のありようと無関係ではありません。インターネット時代の子どもは、親の世代とはコミュニケーションのとり方も、身につける知識や技術も大きく変わっているはずです。人間形成学科では、このような社会・歴史的な観点から、人の発達とその条件について、また社会がかかえる問題の解決策について、探究していきます。



入学から卒業までの流れ・カリキュラム



進路状況はP.15参照

さらに学びたい人は
大学院に進学

人間発達専攻

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

兵庫県中央子ども家庭センター 勤務

稲田 さやか さん
(2009年3月卒)



学部と大学院での学びを活かし、 人と向き合う専門職に就いて

現在、私は、兵庫県の心理職として兵庫県中央子ども家庭センターに勤務しています。センターの業務は、療育手帳にかかわる心理判定や発達相談、虐待、非行問題への対応など多岐にわたります。配属される機関によって仕事は様々ですが、希望通り、こどもに関わる仕事に就くことができ、先輩に指導して頂きながら、勉強の日々です。

学部では心理学だけでなく教育学など幅広く学び、教員免許も取得しました。さらに、大学院では専門的な授業や実習で実践的に学びました。実践的な学びの中でも最も印象に残っているのは、心理教育相談室での面接と児童養護施設でのプレイセラピーです。授業やスーパーバイズを通して学んだ心理士としての姿勢が、現在の自分の軸になっていると実感します。

今後も専門性を磨きながら、「生きにくさ」を抱えている人が少しでも生きやすくなるような支援をしていきたいと思っています。

INTERVIEW 03

国立国会図書館 勤務

真子 和也 さん
(人間発達科学科2006年3月卒)
(発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に改組しました。人間発達科学科は現在の人間形成学科の前身です。)



学校教育に疑問を感じたことのある方におすすめのコースです

私は、大学入学前から現代の学校教育制度の画一性に疑問を持っていましたので、教育科学論を志望しました。それが日本経済の発展に貢献したことは否定しませんが、もっと自由なやり方があってよいと思っていました。こうした拙い問いに対して、コースの先生方は、多くの素材を提供しながら、自分の頭で考えるよう促してくれました。

私は現在、国立国会図書館に勤務しています。今の仕事は、「立法調査業務」というもので、国会議員からの依頼に対して、図書館の蔵書や各種のデータベースを用いて作成した報告書を提供したり、将来国会で話題になりそうなテーマについて調査論文をまとめたりしています。常に複数の調査案件を抱え、書庫とデスクとの往復に明け暮れる毎日です。

学生時代に得た知識は社会でそのまま役立つものではありませんが、発達科学部で自分の頭で考える力を培ったことは、仕事の上でも、社会人として生活していく上でも、とても大きな財産となっています。

INTERVIEW 02

ひかりのくに株式会社 勤務

長田 亜里沙 さん
(人間発達科学科2004年3月卒)
(発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に改組しました。人間発達科学科は現在の人間形成学科の前身です。)

仕事の喜びと重責の中で

現在、保育図書の編集をしています。「子どもに関わる仕事がしたい」、「本が好き」、「何かを作りたい」これらの思いが、編集の仕事を目指した原点です。

先生方をはじめ多くの方の励ましに支えられて就職できました。先輩方のご指導を受けて、現場の保育者の声を聞き、本を作っています。タイトルひとつで本の売れ行きが変わり、一語、一文字で文章の意味もニュアンスも変わってきます。

発達科学部では、卒業論文では若狭出身の女性詩人の生涯と詩を研究しました。詩を綴る中で児童劇を発見していったその女性詩人の、言葉やリズムから伝わる思いを感じ取ることを、論文作成を通じて経験させてもらえたように思います。

今日、言葉、文章のおもしろさと難しさを、読者(受け手)と著者(作り手)の橋渡しという立場で、改めて感じています。

本という形にすることは一筋縄ではいきませんが、少しでも多くの保育者のお役に立てる本を作れば、と考えています。

INTERVIEW 04

神戸市の小学校 勤務

原田 麻衣 さん
(2010年3月卒)



かけがえのない仲間と共に 夢を実現できた大切な場所

現在、私は小学校教員として働いています。教員は小学生の時から夢でした。発達科学部に入学した時は、周りに知り合いもなく、不安もありましたが、学校教育論コースに入ったことでかけがえのない仲間に出会いました。

教育実習の時は、夜遅くまで残ってみんなで授業の指導案を検討したり、大学での講義では、グループに分かれて乳幼児の遊びを考えて発表したりしました。一人では成し遂げられなかったことも、信頼している仲間と共に取り組むことではじめて出来たことが数多くありました。授業以外でも、コースやゼミの仲間と公私共に楽しく充実した大学生活を送ることができました。そんな環境の中で、私は人と人との繋がりの大切さを改めて実感し、教師として、子どもたちにそのことを伝えていきたいと思いました。

今後は、子どもと一緒に遊ぶことや、子どもに近い立場で関わっていけることを最大限に生かし、子どもと共に成長していける教師になりたいと思っています。

主な進路・主な資格免許の取得状況

心理発達論 コース

主な進路

- | | |
|----------------|-----------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・愛媛銀行 | ・アドバンスクリエイト |
| ・大津赤十字病院 | ・沖電気工業 |
| ・三洋化成工業 | ・花王 |
| ・滋賀銀行 | ・サントリーホールディングス |
| ・新学社 | ・東京海上日動火災保険 |
| ・学校法人高宮学園 | ・ブレーションセンター |
| ・日本ハムファクトリー | ・丸紅 |
| ・パソナ | ・三菱鉛筆 |
| ・ひかりのくに | ・三菱電機ビルテクノサービス |
| ・マンダム | ・リクルートキャリア |
| ・三井住友銀行 | ・JR西日本 |
| ・三菱東京UFJ銀行 | ・明石市職員 |
| ・ヤフー | ・大阪教育大学職員 |
| ・裕幸計装 | ・神戸市職員 |
| ・讀賣テレビ放送 | ・広島市職員(心理職) |
| ・神戸大学大学院 | ・法務省矯正局 |
| 人間発達環境学研究所(3名) | ・九州大学大学院人間環境学府 |
| | ・京都大学大学院教育学研究科 |
| | ・甲南大学大学院人文科学研究科 |
| | ・神戸大学大学院 |
| | 人間発達環境学研究所(7名) |
| | ・鳥取大学大学院医学系研究科 |
| | ・名古屋大学大学院 |
| | 教育発達科学研究科 |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・幼稚園教諭一種免許状 |
| ・中学校教諭一種免許状(社会) | ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) |
| | ・高等学校教諭一種免許状(公民) |
| | ・特別支援学校教諭一種免許状 |
| | ・学芸員 |

教育科学論 コース

主な進路

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・中国銀行 | ・朝日新聞社 |
| ・日本発条 | ・エヌ・ティ・ティ マーケティングアクト |
| ・長谷工コーポレーション | ・関西アーバン銀行 |
| ・三井住友信託銀行 | ・学校法人滋慶学園グループ |
| ・愛媛県職員 | ・ミスノ |
| ・和歌山県教員(小学) | ・SGホールディングスグループ |
| ・神戸大学大学院 | ・大阪高等裁判所 |
| 人間発達環境学研究所(1名) | ・神戸市職員 |
| ・神戸大学大学院国際協力研究科 | ・坂井市職員 |
| | ・関西女子短期大学 |
| | ・神戸大学大学院 |
| | 人間発達環境学研究所(3名) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・小学校教諭一種免許状 |
| ・中学校教諭一種免許状(社会) | ・中学校教諭一種免許状(家庭) |
| ・中学校教諭一種免許状(数学) | ・中学校教諭一種免許状(公民) |
| ・高等学校教諭一種免許状(家庭) | ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) |
| ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) | ・高等学校教諭一種免許状(数学) |
| ・高等学校教諭一種免許状(公民) | ・高等学校教諭一種免許状(数学) |
| ・高等学校教諭一種免許状(数学) | ・特別支援学校教諭一種免許状 |
| ・特別支援学校教諭一種免許状 | ・幼稚園教諭一種免許状 |

子ども発達論 コース

主な進路

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・アイ・ケイ・ケイ | ・ウィル |
| ・池田泉州銀行 | ・ジーエス・ユアサ コーポレーション |
| ・エン・ジャパン | ・高槻わかば幼稚園教員 |
| ・大阪国際 大和田中学校・高等学校講師 | ・東京海上日動火災保険 |
| ・日産化学工業 | ・東芝 |
| ・ベネッセスタイルケア | ・トヨタ自動車 |
| ・ECC ジュニア事業部 | ・ニトリ |
| ・大阪府教員(小学) | ・ひかりのくに |
| ・川西市教員(幼稚) | ・三菱東京UFJ 銀行 |
| ・神戸市教員(幼稚) | ・神戸市職員 |
| ・神戸市教員(小学) | ・神戸大学附属幼稚園教員 |
| ・神戸市職員 | ・東京都教員(小学・中学) |
| ・高槻市職員 | ・神戸大学大学院 |
| ・名古屋市教員(幼稚) | 人間発達環境学研究所(1名) |
| ・広島市職員 | ・兵庫教育大学大学院学校教育研究科 |
| ・横浜市職員(保育士) | |
| ・神戸大学大学院 | |
| 人間発達環境学研究所(2名) | |
| ・東京大学大学院教育学研究科 | |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|-------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・幼稚園教諭一種免許状 |
| ・中学校教諭一種免許状(理科) | ・小学校教諭一種免許状 |
| ・高等学校教諭一種免許状(理科) | |
| ・特別支援学校教諭一種免許状 | |
| ・幼稚園教諭一種免許状 | ・学芸員 |

学校教育論 コース

主な進路

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・甲子園学院小学校教員 | ・ジェー・ピー・シー |
| ・成基コミュニティグループ | ・損害保険ジャパン日本興亜 |
| ・ニトリ | ・高羽六甲アイランド小学校教員 |
| ・ボーネルンド | ・ニトリホールディングス |
| ・フィリップ モリス ジャパン | ・ベネッセコーポレーション |
| ・愛知県教員(小学) | ・みずほフィナンシャルグループ |
| ・京都市職員 | ・三井住友銀行 |
| ・京都府教員(小学) | ・明治安田生命保険相互会社 |
| ・神戸市教員(小学) | ・大阪府教員(小学) |
| ・神戸市職員 | ・大阪府教員(小学・中学) |
| ・宝塚市教員(幼稚) | ・京都府教員(小学) |
| ・兵庫県教員(小学) | ・京都府教員(特別支援) |
| ・兵庫県教員(中学) | ・神戸市教員(小学) |
| ・兵庫県職員 | ・神戸市消防職員 |
| ・和歌山県教員(小学) | ・広島町職員 |
| ・神戸大学大学院 | ・滋賀県教員(小学) |
| 人間発達環境学研究所(3名) | ・徳島県教員(小学) |
| ・神戸大学大学院 | ・兵庫県教員(小学) |
| 人間発達環境学研究所研究生 | ・和歌山県教員(小学) |
| | ・神戸大学大学院 |
| | 人間発達環境学研究所(4名) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・幼稚園教諭一種免許状 |
| ・中学校教諭一種免許状(社会) | ・小学校教諭一種免許状 |
| ・中学校教諭一種免許状(家庭) | ・中学校教諭一種免許状(理科) |
| ・中学校教諭一種免許状(数学) | ・中学校教諭一種免許状(社会) |
| ・高等学校教諭一種免許状(家庭) | ・中学校教諭一種免許状(数学) |
| ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) | ・高等学校教諭一種免許状(理科) |
| ・高等学校教諭一種免許状(公民) | ・高等学校教諭一種免許状(数学) |
| ・高等学校教諭一種免許状(数学) | ・特別支援学校教諭一種免許状 |
| ・特別支援学校教諭一種免許状 | |
| ・幼稚園教諭一種免許状 | |

心理発達論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- ☐心理学
- ☐発達障害
- ☐発達
- ☐人格発達
- ☐カウンセリング
- ☐心理検査

人の「心の発達」を、様々な側面から科学的に探究する

人の生涯は、受胎に始まり、誕生、赤ちゃんの時代、子どもの時代、青少年の時代、大人の時代、高齢の時代を経て、死で終わります。こうした生涯のそれぞれの時代に重要な「心の発達」があるとともに、各時代の「心の発達」が相互に影響しています。心理発達論コースでは、心の発達の様相とその支援とについて、発達心理学を中心に、様々な学問領域から学びます。具体的には、個々人が自分らしさをどのように形成してゆくのかという人格発達、人の認識・思考・判断等の変化を探る認知発達、心の病をどのように理解し、ケアするかという臨床心理学、発達の障害をどのようにとらえ、支援するかという発達障害学などです。本コースでは、これらの学問領域における理論や知見を学ぶことに加え、心理学の手法を用いて心理学的知見を見だし、それを卒業論文にまとめることを4年間のゴールとしています。そのため、

心理学概論・各論の授業と平行して、実験法や観察法、質問紙法、検査法などの心理学研究法を獲得していくカリキュラムが組まれています。2年生ではまず、様々な研究法を実習し、データ分析のための統計法も学びます。3年生になると、計画立案ーデータ採取ー分析ー結果解釈という研究プロセスを、ゼミの仲間と共同で経験します。4年生では、個人の関心から研究テーマを設定し、一人で卒業研究に臨みます。卒業後の進路は様々で、心理学に関連する仕事もそうでない仕事もあります。しかし、心とその発達について、苦労して採取した生のデータで、自分の考えた仮説を実証し、結果をレポートや論文の形式で発信するという、科学的探究を経験してきたことは、卒業生の将来に、有形無形の影響を与えています。カウンセラー等の心理職を目指す人は、大学院に進学し、臨床心理士の資格を取得します。

主なコース専門科目

- ☐心理学研究法1
- ☐心理検査法1
- ☐心理統計法1・2
- ☐人間関係発達論
- ☐教育発達心理学
- ☐深層心理学
- ☐障害児発達学
- ☐発達障害心理学2
- ☐発達障害臨床学2
- ☐科学教育論
- ☐子ども社会論
- ☐心理学研究法2
- ☐心理検査法2・3
- ☐生涯発達心理学
- ☐人格形成論
- ☐障害児指導学
- ☐心理発達論演習A・B・C
- ☐知的障害の心理・生体・病理演習
- ☐心理学研究法3



教員からのメッセージ

対人関係における「傷つきやすさ」を超えて

相澤 直樹 准教授(臨床心理学,臨床心理検査(投影法))

私たちのゼミでは、心の成長にともなう自己や対人関係に関わる問題を幅広く研究しています。とくに対人場面における「傷つきやすさ」を主要な研究テーマとして、いわゆる対人恐怖や自己愛(ナルシズム)の問題を発達の観点と臨床的観点から解明しています。それは、単に傷つきやすさを説明することではなく、人の心の成長の過渡的な姿としてその痛みを抱え、乗り越えていく道を探求することでもあります。ただし、そのようなテーマに限らず、ゼミの学生には自分自身に関心の深い研究テーマを発見するように勧めています。なぜならば、心理学はそうのようにしてはじめて息の長い取り組みが可能となるからです。また、実際の人々の心から学ぶことも大切なことと考えていますので、研究手法としては調査研究や実践研究などを指導しています。そのほか、臨床実践分野においては、心の問題に悩む人々を対象としたロールシャッハ検査法の研究にも取り組んでいます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

(P) 2016年3月で退職予定

相澤 直樹 准教授	赤木 和重 准教授	伊藤 俊樹 准教授	河崎 佳子 教授	齊藤 誠一 准教授
臨床心理学, 臨床心理検査(投影法)	発達障害心理学	臨床心理学	臨床心理学, 発達臨床心理学	発達心理学
青年期における自己愛的傾向と対人恐怖の傾向に関する調査研究を行っています。ロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法(投影法)について実践的に研究しています。	自閉症児のコミュニケーションの発達に関心をもって研究しています。特に自閉症児が他の子どもに「教える」という行動の発達に注目しています。	臨床心理学を専攻し、アートをを用いた芸術療法や心理療法で相談者のイメージが如何に変容するかを研究しています。又、投影法を用いた消費者の深層心理の研究も行っています。	聴覚障害児の心理発達と家族支援について研究してきました。近年は、虐待児童への心理的ケアについて乳児院・児童養護施設を舞台に取り組んでいます。	思春期の身体発達や性的成熟が、その子どもや、親・友人などの周囲の人たちにどのような影響を与えるかを研究しています。
坂本 美紀 准教授	谷 冬彦 准教授	鳥居 深雪 教授	林 創 准教授	森岡 正芳 教授 ^(P)
教育心理学	人格心理学	発達障害臨床学	認知発達心理学, 教育心理学	臨床心理学, 文化心理学, カウンセリング
教科学習における知識の獲得とその活用について、学習者の内的過程と学習環境づくりの両面から研究しています。	青年期におけるアイデンティティ形成や自己形成の研究を中心として、人格(パーソナリティ)の生涯発達に関して広い視野で研究をしています。	読み書きが苦手、多動、社会的な意味の理解が苦手、といった様々な困難さの背景にある脳機能と効果的な支援方法について研究しています。	幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性やコミュニケーションの発達に関する研究をしています。	ナラティブ(物語)や対話的自己という視点からトラウマのケア、心身相関、家族関係、文化と癒しの問題に取り組んでいます。

主な卒業研究テーマ

- ・障害幼児をもつ親の子ども観が求める療育内容に及ぼす影響
- ・絵本を手がかりにした日常的な記憶における自伝的推論の検討
- ・大学生が親の老いを感じる時
 - ー親への気持ち、関わり方の変化を中心にー
- ・青年期における劣等感が意欲や努力につながるプロセスと影響要因についての検討
- ・大学生における時間的展望の様相と過去の出来事の捉え直しとの関連
- ・青年期における養護性の発達と友達とのつきあい方
- ・青年期における理想自己と現実自己のズレの変化過程
- ・「今の私」と「親になった私」との手紙のやりとり
 - ー親準備性に着目してー
- ・難聴者の「居場所」に関する研究ー中等度難聴者に注目して
- ・対人不安と完全主義、自己意識、他者意識との関連
- ・幼児期における子どもの習い事が親の心理に及ぼす影響について
- ・夫の対母親行動についての妻の受容に影響を及ぼす要因の検討
- ・大学生活への意欲・関心と就職不安との関連について
- ・教示方法の違いがもたらす箱庭制作における心的受容の違い
- ・質問紙法およびロールシャッハ法から見る現代の娘が抱く父親像
- ・音楽と映像のリラクゼーション効果
 - ーパーソナリティ特性との関連ー
- ・お茶の購買行動における意識的・無意識的欲求の働きに関する研究
- ・来日目的別に見た中国人留学生の異文化適応
- ・介護福祉分野におけるバーンアウトと感情労働、及び「巻き込まれ」の関連
- ・対面場面とインターネットを介したコミュニケーションに現れる愛着行動の違い
- ・自己評価におけるポジティブ視とその形成過程
- ・学生アメリカンフットボールチームにおけるリーダーシップの分析
 - ーリーダーとフォロワー双方の観点からー
- ・自閉症スペクトラム障害を対象としたジャグリングの臨床応用可能性
- ・労働者のストレスとSOCとの関連
- ・被服関心と賞賛獲得欲求、拒否回避欲求、自己受容感の関連
- ・大学生における回避的コーピング方略について
- ・青年期における孤独感と友人関係及び依存症の関連

「こころ」に寄り添うことを考えるコース

坂倉 有紀 さん(心理発達論コース4年生)

心理発達論コースでは2年生で研究の基礎を学び、3年生でゼミごとに共同研究を行い、4年生で卒業論文を執筆することを通して心理学の学びを深めていくことができます。

その中で私の心理学に対する考え方が変わったのは「心理検査法」の授業です。友人や自分自身に検査を行い結果を考察することで、人の心の多彩さを実感しました。その一方で悩みや困難を抱えている人を検査する場合は注意が必要であることも学びました。WISCをはじめとする知能検査は診断がその人の将来を左右する力を持っており、将来心理職に就けば人の人生に大きく関わることになるのだと心理学の影響の強さを知ることができたからです。

人がより良く生きるためのサポートをするのが心理学の一つの役割だと思います。では今心理学には何が求められているのか、どんなサポートができるのか。次々に生まれる心理学への疑問を考え抜くことができるコースだと思います。

学生からのメッセージ

子ども発達論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 子どもの発達
- 乳幼児教育学
- 子どもの数理認識
- 幼年音楽
- 子どものからだづくり
- 児童文学
- 子どもの表現教育

乳幼児から青年期の子どもを対象に、 子どもの教育と発達を総合的に学ぶ

- ①子ども発達論コースは、乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識、発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に学びます。
- ②子どもの教育や子どもと関わる仕事を目指す方、子どもの文化に興味のある方、子どもの心やからだの発達と教育の謎に迫りたい方などとともに、子どもを多面的に学び研究していきます。
- ③一方では、「子どもの認識と表現の発達」として、家庭・地域での生活体験や学校教育ともかかわって、言語表現、数理認識、運動発達、音楽表現、造形表現等の領域について学びます。
- ④他方では、今日の子どもの達がかかえる困難や発達のもつれに焦点をあてて、家庭、地域、学校などでの教育実践や支援のあり方について学びます。

主なコース専門科目

- 子どもの発達
- 子どもの心と教育
- 子どもと生活
- 子どものからだづくり
- 子どもの認識
- 子どもの表現
- 子どもの表現教育
- 子どもとメディア
- 子どもの発達支援
- 児童福祉論
- 子ども社会論
- 心理統計法
- 人間関係発達論
- 教育制度
- 異言語指導論
- 子ども発達論演習1・2
- 数理認識発達論
- 子どもスポーツ論
- 幼年音楽論
- 美術教育史論
- 乳幼児認知発達論
- 造形発達論
- 児童文学論
- 健康行動科学
- 子ども発達研究法1・2

教員からのメッセージ

算数・数学についての 子どもの「わかり」を解き明かす

岡部 恭幸 准教授(数理認識論, 数学教育)

子どもが算数・数学がわかるようになるとはどういうことでしょうか。繰り返し練習さえすればいつかわかるようになるのでしょうか。授業に積極的に取り組み、しっかり発表すればわかるようになるのでしょうか。これらの答えを見つけるのは実は簡単なことではありません。

私達の研究室では数理認識の発達と教育についてのいくつかの研究を行っています。子どもはどのように数理概念をとらえているのでしょうか。さらに、子どもが獲得すべき概念はどのような構造をもっているのでしょうか。また、子どもはそれをどのように獲得していくのでしょうか。子どもたちの「わかり」は、まだまだ解き明かしていくべき「謎」に満ちあふれています。

また、この研究室では、研究で得られた知見をもとに、現場の先生方とも協力しながら教育内容や指導方法の開発も行っています。子どもの「わかり」を大切にする算数・数学教育をともに創っていきたいと考えています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡部 恭幸 准教授	北野 幸子 准教授	木下 孝司 教授	國土 将平 教授	五味 克久 教授
数理認識論, 数学教育	乳幼児教育学, 保育学	発達心理学	身体発達発達, 保健体育科教育, 健康・スポーツ測定	幼年音楽, リトミック, 合唱指揮
算数・数学の授業の中で子どもたちはどのように概念を形成していくのか、またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。	子ども特に乳幼児(0～8歳くらい)の遊び・生活・学びの内容や、乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。	乳幼児や障害をもつ子どもたちが、発達の主体となり、相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。	子どもの身体の発達や健康、体力・運動能力・運動動作の発達を理解し、それらに影響を与える教育・学習や生活環境、生活習慣との関係を探っています。	音楽でいかに遊ぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは、手作り楽器で音の発見というテーマです。
鈴木 幹雄 教授	目黒 強 准教授			
図工・美術教育学, 芸術教育に関連した教育学	児童文学, 国語教育			
(1)子どもの心に語りかける教師たち・自分の中に変化を発見する子ども達、或いは(2)モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。	近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。			

主な卒業研究テーマ

- ・現代の小学生における植物遊び体験の実態調査
- ・人々は魅力的な芸術教育をどのようにつくり上げてきたのかー3人の芸術教育者の試みー
- ・人形を用いたふり遊びにおける幼児の理解とコミュニケーションの発達ー子ども・人形・おとなの三者関係に着目してー
- ・児童養護施設における読書環境の実態
- ・保育用品としての「おどろぐばこ」の歴史
- ・文学教育におけるメディアリテラシーの育成ー「注文の多い料理店」を事例としてー
- ・3歳児クラスの仲間関係の発達における身体接触の役割について
- ・分離量で表した分数を学ぶ必要性ー分数導入単元の指導を考えてー
- ・子どもとの相互作用を重視した保育実践の検討ー臨床美術の分析を中心にー
- ・幼児期の科学教育ー科学絵本の読み聞かせを通してー
- ・数唱発達を通じた幼児の数概念の獲得に関する研究
- ・イリノイ州立大学幼児教育学研究者の幼児教育観についての一考察
- ーラウラ・E・バーグ氏の著作を手がかりにー
- ・3歳児クラスにおけるトラブルの発達ー未解決のトラブルに着目してー
- ・4歳児はどのように絵本をとらえるかー昔話「三びきのこぶた」の読み聞かせを通してー
- ・子育てを通して母親が成長していくプロセスー幼児・学童期の子どもをもつ母親の語りの分析からー
- ・子どもとパズル遊びに関する研究
- ・子どもの赤ちゃん返りの実際と教育的対応に関する研究
- ・地域における子育て支援政策の展開ー地域子育て支援センター事業に着目してー
- ・地域に対する理解や興味を深めるための授業の工夫についての考察ー総合的な学習の時間においてー
- ・知育玩具とその対象年齢
- ・父親の育児参加とその影響ー父母の違いに着目してー
- ・定期的な冒険教育活動が子どもの意識や態度に与える影響
- ・表現の魅力を伝える教育についての考察

ここだからこそ学べる子どもの姿、 子どもの魅力を感じる

矢野 叶子 さん(子ども発達論コース3年生)

このコースでは、教育、心理、数理認識、運動、音楽、芸術、文学などの視点から子どもを理解することで、新しい子どもの姿にどんどん出会うことができます。

私自身は幼稚園教諭を目指しこのコースにはいりました。友達と話し合ったり、身体を動かしたり、実際に子どもと触れあったりと様々な方法で子どもについて学ぶ機会が多く、このコースだからこそこんなに多くの子どもの姿を学べるのだなど実感し、保育の方法を学ぶことが将来につながるのではないことを学びました。さらに、実践現場の方々のお話を聞くことが多く、とても勉強になります。そのなかで、新たな子どもの魅力を知り、感動するとともに、子どもの世界により一層ひきこまれました。

コースの人数は一学年20名ですが、担当教員は7名おります。親しみやすい雰囲気やみんなが子どもを好きだという同じ思いをもっています。そんな仲間や先生方と一緒に、子どもの魅力を思う存分感じてみませんか。

学生からのメッセージ



教育科学論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- 教育の歴史
- 教育のしくみ
- 教育の方法
- 社会科教育
- 科学教育
- 美術教育

教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう？

「科学・サイエンス」という言葉で皆さんが思い浮かべるのは、おそらく自然科学や科学技術のイメージではないでしょうか。しかし、この言葉の語源「スキエンティア」(ラテン語)は、「物事が今のような仕方であるのはなぜかについて知る」という意味なのです。私たち教育科学論コースが目指すのは、まさに、「教育や学校のいろいろな現象やあり方が今のような仕方であるのはなぜか、そしてそれは望ましいあり方か？」を問うことです。皆さんは今まさに学校で教育を受けていますね。学校があり先生がいていろいろな教科の授業が行われる。このような皆さんにとって自明の教育のあり方は、実は、法律・制度・行政・財政のルールや枠組みに即して運営され、しかも、このような学校教育制度が

成立したのは、人類史に見ればごく最近のことにすぎません。また、各教科の内容はそれぞれ、やはり人類の長期にわたる思索、探究、試行の結果が凝縮されたものですし、それを教える先生の教え方についても、実にさまざまな理論や方法の探究の歴史があります。たとえれば、いくつもの長い川が合流した地点に皆さんの学校は立っていて、そこに皆さんがいるわけです。では、その「川」は今後どう流れていくか。それは皆さんにとってわからないだけでなく、実は私たち大人にもわかりません。でも、今よりもっとたくさんの豊かな水が活き活きと流れる川のあり方がきっとあるはずです。その「あり方」を皆さんと共に考えてみたい。それが、教育科学論コースのスタッフ一同の願いです。

主なコース専門科目

- 教育学研究法1～8
- 教育思想史
- 日本教育史
- 教育制度
- 教育政策
- 教育方法学
- 学習指導論
- 科学教育論
- カリキュラム論
- 社会教育論
- 社会教育計画論
- 授業デザイン論
- 教育哲学
- 異言語指導論
- 造形発達論
- 教育科学論演習1・2
- 教育法
- 教育行政学
- 生活指導論
- 社会科教育方法論
- 教師教育史論
- 教育科学研究1・2

教員からのメッセージ

教育の歴史を知ることが、明日の教育を拓くカギである

船寄 俊雄 教授(日本教育史, 教育学)

新聞やテレビを通して、毎日のように、児童虐待、いじめ、不登校など深刻な教育問題が報じられています。私の研究室では、これらの問題を解決する現実的な処方箋を考えると同時に、これらの問題が歴史的にどのように推移し、その時々によどのような解決策を人々は選択してきたのかという教育史的思考方法を鍛えています。

ゼミは、3年生と4年生合同で行い、4年生は先輩として緊張感を持って卒業研究に取り組み、3年生は4年生と身近に交流することにより、早くから卒業研究へ向けた取り組みができます。また、学部生と大学院生との合同ゼミも行い、研究者の卵である先輩からも指導してもらいます。私の専門は、日本の教員とその養成制度の歴史研究ですが、ゼミ生は私の専門分野にこだわらずに自らが関心を持つテーマに取り組んでいます。大学史、教科書史、子ども史、国語科教育史、道徳教育史など教育の歴史に関して幅広いテーマの研究を行っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲垣 成哲 教授	奥山 和子 講師	川地 亜弥子 准教授	勅使河原 君江 講師	船寄 俊雄 教授
科学教育	日本語教育, 日本事情, 異文化間教育	教育方法学	美術教育	日本教育史, 教育学
科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論、方法、評価及び実践デザインの研究を行っています。	若者の内向き志向が嘆かれています。が、一歩足を踏み出してこの島国を出ることができるのは皆さんの特権です。英語力や奨学金など留学の相談に乗り皆さんを支援をします。	国内外の創造的な教育実践に注目し、わかる・楽しい・感動のある授業づくり、安心できる集団づくりについて研究しています。	美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり、この研究は美術を通して子どもを知ること、私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。	「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」、このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。
山口 悦司 准教授	山下 晃一 准教授	吉永 潤 准教授	渡部 昭男 教授	渡邊 隆信 教授
科学教育	教育制度論	社会認識教育論	教育行政学(地域教育学, 特別ニーズ教育)	西洋教育史, 教育哲学
現在、子どもから大人までが、いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば、それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究しています。	教育制度改革論(子どもの豊かな育ちの保障に向けて、地域が学校に関与するしくみや、学校内部で教職員同士が協働するしくみ等)に関する研究をしています。	幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで(!?), 他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決、または回避できるのだろうか。	「学校」は個人的な体験と想い出の場に留まりません。特別ニーズ児を含む人間発達や地域創造の視点から教育行政の在り方を探求しています。	教育の歴史は改革の歴史でした。その改革の一つのピークである20世紀初頭の「新教育」の研究を通して、今日の教育課題解決への示唆を得たいと考えています。

主な卒業研究テーマ

- ・神戸ノートの有用性と課題
- ・現代米国における学校評価原理の展開と意義 — Value-Addedモデルをめぐる議論
- ・女性の「性」と「病」—『ニンフォマニア』と近代イギリスの性道徳
- ・「子の利益のための」親権—平成23年民法等改正に係る審議会議事録を手がかりに
- ・スクールソーシャルワークの可能性とこれからの展望—教育と福祉の連携をめぐる議論
- ・大阪府における教育基本条例案の政策過程分析
- ・少年院教育をめぐる現状と課題—社会で生きるということを、非社会から学ぶ
- ・「おいしい!」を追求した学校給食
- ・タブレットPCによるマンガを用いた教師教育用ケースメソッド教材—ポインティング型注釈タイプの開発と評価—
- ・理科における概念変化とそのリバウンド抑制を実現するための教授法
- ・旅と人間形成—英国グランド・ツアーに見る学びの旅—
- ・N・ルーマンの理論に依拠した現代日本における「システムとしての教育」存立構造に関する再検討—メディアとしてのライフコース・形式としての知識—
- ・ブラジル移民における移民斡旋の変容—大衆紙移民関連記事の分析を通じて—
- ・＜母と子＞関係における子育ての考察
- ・サードプレイスの魅力と静かな広がり—喫茶店と図書館に着目して—
- ・「個別化・個性化教育」の今日的な位置づけ—愛知県東浦町立緒川小学校に着目して—
- ・小学校現場におけるオープンスペース活用の可能性
- ・東アジアにおける高等教育の国際化と日本の大学

『教育』をテーマに学問の探究を楽しむ

喜村 奈都子 さん(教育科学論コース3年生)

教育科学論コースの一番の魅力は、ゼミ形式の演習が2回生から始まることです。教育方法学、教育史、教育制度、教育行政学など、『教育科学』の中にはたくさんの分野があります。その1つ1つについて主体的に学び、調査し、考え、議論を行うことで自分が学びたいことを見つけることが出来ます。少人数でアットホームなメンバー、そして個性的な先生方と行う演習は毎回知的好奇心が刺激されます。また他コースに比べて、本コースは進路が多様であることも特徴です。教員はもちろん公務員や学芸員、企業への就職や海外留学を希望している人もいます。そのような個性豊かな仲間たちに感化されてとても刺激的な毎日です。自由で選択肢の多いコースなので、他学部や他学科の授業を積極的に履修することで学際的な学びができるのも大きな魅力です。

みなさんの知的好奇心を満たす環境が教育科学論コースにはあります。ぜひ一緒に学問の探究を楽しみましょう。

学生からのメッセージ



学校教育論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- ☐幅広い教養
- ☐小学校教諭
- ☐発達を踏まえた実践力
- ☐幼稚園教諭
- ☐協同力
- ☐特別支援学校教諭

小学校, 幼稚園および特別支援学校の 教諭の免許を取得しよう

小学校や幼稚園, 特別支援学校の教師を目指す人たちが, 学校教育を通じた人間発達と人間形成に関して, 理論的かつ実践的に学びます。

コースの所定の科目を履修することにより, 小学校教諭, 幼稚園教諭および特別支援学校教諭の資格を取得することができます。そのために, コースに所属する学生にはまず, 人間, 文化, 社会, 自然のさまざまな事象について幅広く学ぶことを求めます。それらに関する広い関心と教養が, 優れた学校教育実践の基礎として不可欠からです。その上で, このコースでは, 適切な学習環境づくりと発達支援のための子

ども理解の方法, 各教科をはじめ, 道德, 総合的な学習などの指導法, さらにには学校教育の歴史, 制度など, 教師として必要な専門的知識, 技能についての学習を行います。それらの学習の成果を, 実践的場面で, つまり実際の子どもの前にして試す場が教育実習です。教育実習を通して, 教職の意義への理解と教育への情熱はいっそう深まることでしょう。以上の学びの集大成としての卒業研究は, 「子ども発達論」か「教育科学論」のいずれかのコースの教員のゼミに所属してまとめます。子どもの発達や学校教育に関する多様な課題領域の中から「自分ならではの」テーマを選択し, 1年以上をかけて追究していきます。

主なコース専門科目

- ☐教育哲学
- ☐学習指導論
- ☐教育政策
- ☐学習障害等教育総論
- ☐異言語指導論
- ☐教育思想史
- ☐幼児環境指導法
- ☐幼児健康指導法
- ☐幼児人間関係指導法
- ☐幼児言語表現指導法
- ☐教育方法学
- ☐カリキュラム論
- ☐授業システム論
- ☐特別活動指導法
- ☐障害児発達学
- ☐特別支援教育総論
- ☐幼児教育内容論
- ☐学校教育資料調査法
- ☐教師教育史論
- ☐教育法
- ☐教育行政学
- ☐生活指導論
- ☐特別支援教育学
- ☐障害児指導学
- ☐視覚障害児発達学



教員からのメッセージ

比較を通して学校教育の「当たり前」をとらえ直す

渡邊 隆信 教授(西洋教育史, 教育哲学)

私たちのゼミでは, 学校教育を「比較」の視点から多面的に考察することを大切にしています。基本となるのは過去および外国との比較です。

仮に「教室」を例にとると, 日本では今日なお, 四角い部屋のなかで黒板を背にした教師が教卓をはさんで30~40人の子どもたちと向かい合っているような教室の光景が一般的です。しかし, 昔の教室はいったいどのような形をしていたのでしょうか。また, 他の国々の教室は現在どうなっているのでしょうか。それらを調べていくと, 私たちの思い描く教室が当たり前ではなくなってきました。

これは教室に限ったことではありません。「当たり前」が実は自明でないことに気づき, それがなぜそうになっているのかを確かめ, そのうえで今後どうあるべきかを考える。ゼミでは, 学校教育のさまざまな「当たり前」を歴史的社会的文脈のなかでとらえ直し判断する姿勢と能力を, 将来教師を目指す仲間たちとともに鍛え合っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲垣 成哲 教授	岡部 恭幸 准教授	奥山 和子 講師	川地 亜弥子 准教授	北野 幸子 准教授
科学教育	数理認識論, 数学教育	日本語教育, 日本事情, 異文化間教育	教育方法学	乳幼児教育学, 保育学
科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論, 方法, 評価及び実践デザインの研究を行っています。	算数・数学の授業の中で子どもたちはどのように概念を形成していくのか, またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。	若者の内向き志向が嘆かれています。が, 一歩足を踏み出してこの島国を出ることができるのは皆さんの特権です。英語力や奨学金など留学の相談に乗り皆さんを支援をします。	国内外の創造的な教育実践に注目し, わかる・楽しい・感動のある授業づくり, 安心できる集団づくりについて研究しています。	子ども特に乳幼児 (0~8歳くらい) の遊び・生活・学びの内容や, 乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。
木下 孝司 教授	國土 将平 教授	五味 克久 教授	鈴木 幹雄 教授	勅使河原 君江 講師
発達心理学	身体発達, 保健体育科教育, 健康・スポーツ測定	幼年音楽, リトミック, 合唱指揮	図工・美術教育学, 芸術教育に関連した教育学	美術教育
乳幼児や障害をもつ子どもたちが, 発達の主体となり, 相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。	子どもの身体の発達や健康, 体力・運動能力・運動動作の発達を理解し, それらに影響を与える教育・学習や生活環境, 生活習慣との関係を探っています。	音楽でいかに遊ぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは, 手作り楽器で音の発見というテーマです。	(1) 子どもの心に語りかける教師たち・自分の中に変化を発見する子ども達, 或いは(2) モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。	美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり, この研究は美術を通して子どもを知ること, 私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。
船寄 俊雄 教授	目黒 強 准教授	山口 悦司 准教授	山下 晃一 准教授	吉永 潤 准教授
日本教育史, 教育学	児童文学, 国語教育	科学教育	教育制度論	社会認識教育論
「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」, このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。	近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。	現在, 子どもから大人までが, いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば, それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究しています。	教育制度改革論(子どもの豊かな育ちの保障に向けて, 地域が学校に関与するしくみや, 学校内部で教職員同士が協働するしくみ等)に関する研究をしています。	幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで(!?), 他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決, または回避できるのだろうか。
			渡部 昭男 教授	渡邊 隆信 教授
			教育行政学 (地域教育学, 特別ニーズ教育)	西洋教育史, 教育哲学
			「学校」は個人的な体験と想い出の場に留まりません。特別ニーズ児を含む人間発達や地域創造の視点から教育行政の在り方を探索しています。	教育の歴史は改革の歴史でした。その改革の一つのピークである20世紀初頭の「新教育」の研究を通して, 今日 of 教育課題解決への示唆を得たいと考えています。

主な卒業研究テーマ

- 美術館における教員研修の意義と成果
- 高齢社会における長期的カリキュラムを持った市民大学の役割と成果
- スポーツパフォーマンス時における喘み締めの実態と認識

主な卒業研究テーマ

- 美術館における教員研修の意義と成果
- 高齢社会における長期的カリキュラムを持った市民大学の役割と成果
- スポーツパフォーマンス時における噛み締めの実態と認識
- 「気になる」子どもの集団保育のあり方
- 一3名の保育者の語りの質的分析を通じて一
- 理科における象徴事例の違いが概念変化に及ぼす効果
- 小学校理科の教師用指導書分析: 第6学年「水溶液の性質」
- 等号の相等性に関する児童の認識について
- 等周長問題の解決に関する考察一等積変形の理解に着目して一
- 幼児の科学教育一図鑑を活用した保育実践の検討を中心に一
- 小学校におけるメディア・エデュケーションの展望
- 「動画」を読む子どもの育成を目指して一
- 日本の小学校における「読書へのアニメーション」の受容と拡大
- 一大阪府 A 市 B 小学校の実践を通じて一

- 「2ちゃんねる」における発達障害者像
- 育児雑誌における「イクメン」記事から見た男性像
- 保幼少連携・接続の研究一「逆段差」の可能性に着目して一
- 社会科において競争的合意形成能力の育成をめざす教材開発
- 一交渉ゲームの開発と試行を通して一
- 現代日本における教職の困難の成立構造
- 一教員文化と教師の自負に着目して一
- 我が国の公立小学校における学校建築の成立と展望
- 一オープンスペースの今日的再評価を通じて一

一人ではできない学びを楽しく仲間とともに

田中 俊光 さん(学校教育論コース3回生)

教壇に立って, 子どもたちに授業をする楽しさを味わったことがありますか?
私は教育実習でこの経験をしました。「良い授業」ができたとき, 必ず子どもたちも「良い表情」になります。子どもたちのそのような表情を見ると, 授業が楽しくて仕方がないのだと気づきました。

ただし, 1つの授業を行う上でも, 教材研究や目標設定, 発問の仕方など考えなければならないことがたくさんあります。そのため, コースの授業では模擬授業を行い, お互いにアドバイスをしたり, 授業をもっと良くするにはどうすべきかを議論し合ったりしています。学生同士の協力を必要とする授業が多いので, 仲良くなりやすい環境の下, 仲間とともに学ぶことで, お互いに刺激合って成長し, 新たな視点を得て, 一人では気付かなかったことに会えることができます。

ここには仲間とともに楽しく学ぶ機会がたくさんあります。一人では気付かなかった学びを見つけに来ませんか?

学生からのメッセージ



人間行動学科

人間の発達を身体, 健康, 行動, 運動から考える

学科の理念

人間が行動する環境が高度に発達し, 複雑さを増している現代社会においては, 人々の価値観も多様化し, それを追求する人間の行動も複雑になっています。このような人間の行動を解明し, 人間の発達を探究するには, 自然科学から人文・社会科学にわたる学際的な枠組みによる教育研究が重要です。人間行動学科では, 人間の行動と発達に係る諸課題を, 健康発達・行動発達・身体行動の視点から探求します。

学科の特色

活動的なライフスタイルの構築を目指す —各ライフステージにおける高いQOLを実現しよう!

社会の高度な発展により, 長寿社会の実現とともに, 人々の価値観は多様化しています。このような社会においては, 自らが自立して生きがいと幸福感を持ち, 活動的なライフスタイルを実践できる健康と活力を保持することが必要です。本学科では発育・発達, 加齢現象と身体的・心理的・社会的健康を総合的に教育・研究し, 各ライフステージにおける高いQOLを実現できる人材を育成します。



実践的行動力を重視 —人間行動について理論と実践に強い人材の育成!

行動ということば, 単に身体的に行動する(動く)だけでなく, 心理的な行動もあれば, 社会的な行動もあります。行動は, まさに人間の発達そのものです。他大学の人間行動は心理学・教育学が中心ですが, 本学の人間行動学科は, これらに加え健康・スポーツ科学の視点も含め, 学際的に教育・研究します。そして実践的行動を重視し, 理論と実践の有機的な結合をめざすユニークな学科です。



新たな人間行動研究に挑戦 —学際的視点から人間行動を考える

青少年の健康行動, 成人・高齢者のメタボや認知機能の問題, 子どもの身体能力の低下, 地球温暖化と人間行動等, 今我が国は人間行動に係わる多くの課題に立ち向かっています。これらの課題は, 人間・社会・自然環境の諸要因が複雑に絡み合っています。これらの課題の解決には学際的なアプローチが欠かせません。人間行動学科では健康科学, 心理・社会科学, 運動・スポーツ科学から, 新たな人間行動学の構築を目指します。

履修コース

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学ぶ

健康発達論 コース

定員: 15名

▶P30



加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

行動発達論 コース

定員: 15名

▶P32



人間の「行動」と「スポーツ」を科学するチーム

身体行動論 コース

定員: 27名

▶P34



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・ 中学校教諭一種免許状(保健体育)
- ・ 社会教育主事*
- ・ 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
- ・ 社会福祉主専任用資格*
- ・ 学芸員*
- ・ 環境再生医資格*

学科長 河辺 章子教授

学科長からのメッセージ

人間の行動に関する科学といえば, 一般に心理学や社会学などがあげられますが, 本学科では, 人間の行動をより深く理解するために, まず行動そのものを構成する身体構造や運動のしくみなどを学びます。これらの知識を基盤として, 人が健やかに生まれ, 育ち, 生きていくための行動や, 健康で心豊かに年齢を重ねることを目標に, エイジングについて心理学, 生理学, 社会学などの分野からアプローチしていきます。これらを個人としてだけでなく, 集団における人と人とのかわりにおいて探究していくことも重要であると考えています。さらに, 人間が紀元前から育んできたスポーツ文化もまた人間行動によって成立するものであり, 現代では高度に洗練されたスキルを持つ運動行動にまで進化しています。このようなスポーツを生理学, 生体力学, 心理学, 社会学, 歴史学などの分野から多角的に探っていきます。人間行動学科では, 人間の行動についての基礎知識をしっかりと持ちながら, より幅広く学際的な立場から人間の行動を探究していきます。



人間発達専攻

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

株式会社
朝日新聞社 勤務

福地 慶太郎 さん
(人間行動学科卒業 2013年3月卒)



仲間と「なぜ」を追いかける時間が ここにある

夏の野球場にこだまする歓声。拳を突きあげる選手、膝から崩れ落ちる選手。左胸のドキドキを抑えながら、ひとりひとりにカメラを向ける。その一瞬を見逃さないように。

私は現在、新聞社の記者として、高校野球などを取材しています。記事を読んだ人が「こんなことがあったのか」と驚くような、まだ世の中に知られていないドラマやニュースを、自分の手で掘り起こすのが一番のやりがいです。

身体行動論コースは、スポーツも遊びも研究も、一生懸命な人が集まっています。実験や卒業研究の時には、ゼミ室に仲間が集まり、実験のアイデアを出し合ったりしていました。そんななかで「自分の手で新しいことを発見する仕事がしたい」と思うようになり、記者の仕事を選びました。

昔の研究を調べたり、仲間の意見を聞いたり、実験を工夫したり。試行錯誤した大学時代の経験は、いまの取材にもつながっています。これからもっと、のめりこんでいきたいと思っています。

INTERVIEW 02

株式会社NTTドコモ 勤務

水間 晴子 さん
(2012年3月卒)



注目度の高まる「健康科学」を 学ぶことのできる充実した環境。

健康発達論コースは、「健康」について文科系、理科系双方問わず様々な分野を専門とする先生がおられ、「健康」について多角的に学ぶことができました。また、教員と学生間の距離が近くアットホームな雰囲気の中できめ細やかな指導を受けることができました。大学時代は部活動にも力を注いでいましたが、そのような環境のおかげで勉強と部活動を両立させることができ、非常に充実した学生生活を送ることができました。「健康」に年々注目度が高まる中、弊社においても「ヘルスケア部門」を立ち上げるなど積極的な取り組みを進めています。

私自身、現在はエリアマネージャーとしてドコモショップの運営をサポートする業務を行っていますが、今後は健康増進につながる新サービスの開発などヘルスケア分野で活躍していきたいと考えています。「健康」を多角的に学んでおくことで、今後の社会において活躍の場が広がることを確信しています。

INTERVIEW 03

長瀬産業株式会社 勤務

高田 京 さん
(2010年3月卒)



発達科学部での大学生活で、 自分の人生の軸がつけられました

私は現在、長瀬産業株式会社という専門商社の人事部門で人材育成の仕事に携わっています。より会社を発展させるためにそこで働く社員に対して何をすればよいのか、ということ日々考えております。

大学では、「人」に焦点をあてて、社会的・心理的・身体的な面から様々なことを学びましたが、次第に人が歳を重ねることで起きる変化に興味を持ちました。ゼミでは加齢にともない起きる筋力やバランス能力の変化を分析し、より高齢者が健康的に生き生きと暮らすには、ということに勉強していました。

このように大学時代に感じていた「人が年を重ねても生き生きと暮らせれば」という思いは、現在仕事を通じて日々感じている「社員1人1人が生き生きと働き満足のできるキャリアをつくることができるよう助けをしたい」という思いにつながっていると感じます。

今後もこの思いを大切に仕事に精進したいと思っています。

INTERVIEW 04

神戸市立
湊翔楠中学校 勤務

谷川 有美 さん
(人間行動学科卒業 2014年3月卒)



目の前にある夢を、全力で追いか けられる場所。

私は一つのことに夢中になるとそれに全力を注いでしまう性格なので、在学4年間はタッチフットボールにのめり込む日々でした。当然採用試験には受からず、現在は生まれ育った神戸で保健体育の講師をしています。しかし、私が夢んだ大学生活に悔いはありませんし、今それがとても活きていると感じています。皆さんにも、今しかできないことに夢中になってほしいと思っています。学問に関してですが、発達科学部での講義を振り返ると、教師を目指す人にも、また各学科でそれぞれの専門分野を追求したい人にも、それを叶えてくれる環境が十分に整っていると、卒業した今改めて強く感じます。加えて、キャンパスに行くのが楽しみなほどアットホームで、こんなにも学部愛の強い人たちが大勢いる学部は他にないと思います。共に夢を目指す仲間、夢を支えてくれる環境こそが発達科学部の宝であり、そして人生において大切なことだと私は学んだような気がします。

主な進路・主な資格免許の取得状況

健康発達論 コース

主な進路

2013年度	2014年度
・積水化学工業	・一般財団法人 近畿健康管理センター
・奈良県農業協同組合	・生活協同組合コープこうべ
・ハンナン	・サカタインクス
・富士通システムズ・ウエスト	・タカキフードサービスパートナーズ
・三越伊勢丹	・ドンク
・TIS	・阪神高速道路
	・三井住友銀行
	・みなと銀行
	・ヤフー
	・ヤンセン ファーマ
	・よしもとクリエイティブ・エージェンシー

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

2013年度	2014年度
	・芸芸員
	・環境再生医

行動発達論 コース

主な進路

2013年度	2014年度
・伊藤忠商事	・池田泉州銀行
・関西電力	・サントリーホールディングス
・京セラ	・住友生命保険相互会社
・クラレ	・東京海上日動火災保険
・コスモスイニシア	・日本生命保険相互会社
・サイバーエージェント	・パナソニックグループ
・ジーユー	・博報堂DYメディアパートナーズ
・ジェイアール西日本不動産開発	・阪急交通社
・鈴与シンワート	・みずほフィナンシャルグループ
・太平寺	・三井住友銀行
・野村證券	・三井不動産
・みずほフィナンシャルグループ	・メガスポーツ
・三井住友銀行	・ヤフー
・三菱電機	・神戸大学大学院
・三菱東京UFJ銀行	人間発達環境学研究科(1名)

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

2013年度	2014年度
・高等学校教諭一種免許状(保健体育)	

身体行動論 コース

主な進路

2013年度	2014年度
・ウエルネスサプライ	・アートリフォーム
・大阪偕星学園高等学校講師	・開智中学校・高等学校教員
・大阪ガス ・岡谷鋼機	・サントリー食品インターナショナル
・花王カスタマーマーケティング	・サントリーホールディングス
・神戸デジタル・ラボ	・ジェイ エイ シー リクルートメント
・サンゲツ ・青年海外協力隊(JICA)	・住友生命保険相互会社
・つるや ・西日本電信電話	・テレビ朝日
・日本イーライリリー	・日本シグマックス
・日本生命保険相互会社	・日本生命保険相互会社
・ハウス食品 ・阪急電鉄	・日本旅行
・日立アプライアンス	・阪急交通社
・ミスノ	・富士通
・三井住友海上あいおい生命保険	・ミスノ
・三菱UFJ信託銀行	・三菱倉庫
・レイス	・三菱東京UFJ銀行
・神戸市教員(小学)	・山崎製パン株式会社
・神戸大学大学院	・Hitachi日立造船
人間発達環境学研究科(2名)	・JR西日本
・佛教大学	・神戸市教員(小学)
・早稲田大学大学院	・神戸大学大学院
スポーツ科学研究科	人間発達環境学研究科(3名)

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

2013年度	2014年度
・小学校教諭一種免許状	・小学校教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(理科)	・中学校教諭一種免許状(保健体育)
・中学校教諭一種免許状(保健体育)	・高等学校教諭一種免許状(保健体育)
・高等学校教諭一種免許状(理科)	
・高等学校教諭一種免許状(保健体育)	

健康発達論 コース

Course Keyword 【コースキーワード】

- ヘルスプロモーション □こころと健康
- ライフスキル教育 □健康行動
- 公衆衛生 □環境保健

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学ぶ

健康発達論コースは、人間の健康に関わる諸問題を扱う「健康科学」について学習・研究するコースです。健康科学においては、ヒトの構造や機能といった生物学・生命科学に関する領域、自然環境や生活環境に関する領域、健康政策や健康教育などヒトの心理的側面や社会科学などに関する領域についての広範囲な知識を身につけ、自ら問題提起をし、これらの問題に対して科学的且つ論理的に徹底して追究する能力が求められます。このような健康に関する広範囲な知識、および問題解決能力を身に付けることにより、より高度な学問を追求する研究者、あるいは実社会における指導者として活躍できる人材の育成を目標としています。このため、学習の目標を人々の健康増進

(ヘルスプロモーション)に置き、そのために必要な基礎的な知識(疾病予防、健康増進のメカニズム、人間の発達と健康、環境と健康とのかかわりなど)および現実に生活している人々に直接貢献する実践的な知識(健康教育と行動変容、健康政策など)の両面について医学、保健学、教育学、心理学等の専門スタッフより教育がなされています。本コースにおいては、文科系、理科系双方の領域に関して広く関心と興味を持ち、ヘルスプロモーションに関する具体的な課題を発見し、健康科学に基づいて基礎的・応用的・実践的な問題を解明するため、徹底的に、且つ多分野にわたる人々と協力して問題解決を図っていかうとする意欲ある学生を待っています。

主なコース専門科目

- ヘルスプロモーション論
- 安全行動・管理論
- 救急医療概説
- 健康統計学
- 健康行動科学
- 公衆衛生学
- 健康環境論
- 健康政策論
- 国際健康開発論
- 健康発達研究法
- 健康行動科学演習1・2
- 健康増進科学演習1・2
- 健康環境論演習1・2
- 健康政策論演習1・2
- ヘルスプロモーション論演習1・2

教員からのメッセージ



普段の何気ない行動と眠りとの関連を探究する

古谷 真樹 講師(睡眠心理学, 生理心理学, 健康心理学)

健康に生きるためには、よく動き、よく食べ、よく眠ることが大切です。当研究室では、最後の眠ることについて研究をしています。眠りは活動による疲労を回復させるだけでなく、エネルギーを蓄えるという重要な機能をもっています。持っている能力を最大限発揮できるよう、積極的に質の良い眠りを構築してほしいと思っています。

卒業研究では、「こころとからだの健康を支える質の良い眠りを導くにはどうしたらいいか?」という問いを軸として、興味のあるテーマを自分で選び、取り組みます。3年生は4年生の手伝いをしながら研究の手順や方法を学ぶので、早い段階から卒業論文作成に必要な基礎的能力を養うことができます。

「寝る前の悩みごとをやめるにはどうすればいい?」「朝、すっきり起きるためには?」「昼間のパフォーマンスを高めるための睡眠のとり方は?」、いろいろありますね。睡眠はとても身近なテーマです。生活の中で感じる眠りに関する不思議を一緒に探求しませんか?

スタッフと研究分野・研究テーマ

加藤 佳子 教授	川畑 徹朗 教授	中村 晴信 教授	古谷 真樹 講師	村山 留美子 講師
健康教育, 健康心理学	健康教育, ヘルスプロモーション	公衆衛生学	睡眠心理学, 生理心理学, 健康心理学	環境保健学, 環境リスク学
生活科学と心理学の学際領域をベースとし、食行動など日常生活における健康に関連する人の行動について探究し、健康の増進を目指しています。	青少年が薬物乱用などの危険行動を避け、健康増進行動を主体的に選択できるようにするため、健康教育、ヘルスプロモーションに関する研究を行っています。	生活習慣と疾病予防や健康増進との関係について研究しています。フィールド調査で健康問題を発掘し、実験で証明するスタイルをとっています。	心身健康の維持・増進を図るために、睡眠とストレスとの関連について生理学的手法を用いた基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。	環境中の化学物質が身体へもたらす影響についての実験と、環境中のリスクに対する人の認知に関する調査を行い、人と環境との関わりのある方について研究を行っています。



主な卒業研究テーマ

- ・オンラインゲーム依存の実態と依存が及ぼす影響及び依存をもたらす要因について
- ・メディアマルチタスクが言語性ワーキングメモリとHR-QOLに与える影響についての研究
- ・大学生におけるボディ・イメージとストレスライフイベントの関連性についての研究
- ・小学生の朝食欠食の改善に向けたアプローチに関して
- ・大学生における性格特性と食物選択動機との関連性
- ・大学生の睡眠問題に対するアプローチについて
- ・大学生の自尊感情の構成概念についての研究
- ・女性の就労と健康〜妊娠・子育て期の女性に焦点をあてて〜
- ・Aシュッツの意味論の射程—私と君,生と思考の問題をめぐり試みからレリヴァンスへー
- ・禁煙が身体及び精神に与える効果の文献研究
- ・笑顔に対する印象評価と性格特性・メンタルヘルスとの関連の検討
- ・ランニングの生涯スポーツにおける適性に関する文献的考察
- ・中学生の歯科保健行動の関連要因に関する文献研究—心理社会的要因に焦点をあててー
- ・メディアリテラシー教育における視線分析装置の有効性の検討
- ・スピリチュアリティと健康の関係に関する文献研究
- ・若年女性におけるストレス対処能力(SOC)と短期的ストレスに関する生体指標との関連性
- ・顔の再認記憶に関する研究:社会的情報による顔イメージの予測の影響
- ・ADHD児のワーキングメモリにおける妨害刺激の影響
- ・高齢者の主観的健康感と過去の就労経験の関係性について
- ・社会との交流が高齢者の健康に与える影響に関する文献学的検討
- ・孤独感と物理的温度的関連
- ・地中海式食事スケールを用いた日本の食事様式の評価とアレルギー症状との関係性
- ・Facebookの利用と人生への満足感の関連—セルフエスティームに着目して—
- ・小学生の現状把握と小学校教育にマーケティングを取り入れることに関する文献的研究
- ・運動部の活動に関連した課題に関する文献的考察
- ・里親制度に関する文献研究

「みんなちがって,みんないい」そんな居心地のいい環境

小守 利紗 さん(健康発達論コース 川畑ゼミ4回生)

健康発達論コースの魅力のひとつは、多様性に富んだ個性のある人が集まっていることです。院生や留学生も多く、学年や国籍の異なる環境下で、各々が独特の視点を持って健康に対してアプローチしています。個性を大切に、受け入れ合う雰囲気に触れる度に、自分の視野や世界が広がるのを感じます。

また、発表やディスカッション、グループワークを取り入れた多彩な講義は、知識を吸収するだけでなく、自分の意見を積極的に発信していく機会でもあります。柔軟な発想力やプレゼンテーションスキルなど、社会で役立つ能力が自然に培われます。

私は、高校時代からたばこと健康に関して興味がありました。本コースで研究するため神戸大学を選び、その分野の第一人者のもと、レベルの高い専門性と環境の中で楽しく研究をしています。また、体育会のアーチェリー部に所属し、苦楽を共にした信頼できる仲間と練習や試合に打ち込み、充実した毎日を過ごしています。

学生からのメッセージ



行動発達論 コース

▶ Course Keyword【コースキーワード】

☐加齢

☐行動発達

☐適応

☐学際性

☐文理融合

☐高齢社会

加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

年齢とともに人間の行動はいかに発達し、人間はどのように社会に適応していくのでしょうか。人間の行動の発達にはどのような個人的・社会的課題が存在し、どのようにすればそれらの課題を解決でき、人間行動の発達を促進できるのでしょうか。行動発達論コースでは、そうした疑問や関心に答えられるように、人間行動の発達と適応に関する仕組みや原理を学び、現実のさまざまな人間行動を多角的に解明、理解する能力と実践力を身につけ、人類社会に貢献しうる学生の育成を目指しています。行動発達論コースでは、以下に示すような学際的・総合的な4つの学習目標を設定しています。1) 人間の行動を生体メカニズムから社会・文化的行動まで総合的に理解する能力を身につける。2) 人間の行動を発達論的観点と社会・文化的観点から分析

的に理解する能力を身につける。3) 人間の行動を自然科学と社会科学の両面から観察・解明する方法を習得する。4) 人間の行動と環境との関係についての理解を深める。これらの学習目標を達成するために、このコースでは、応用生理学、環境生理学、身体運動科学、加齢体力学、社会学、社会心理学、行動適応学、実験心理学、ジェロントロジー、アクティブエイジング研究、スポーツプロモーションなど行動発達に関わる諸領域の理論と方法を学び、実践力を養います。現代の人間や社会が抱えている多様な課題に情熱を傾けて意欲的に取り組む学生、そして人間行動に関わる未知の分野を積極的、自主的に開拓する意欲のある学生を待っています。

主なコース専門科目

- ☐行動発達研究法

☐エイジング論

☐行動適応論

☐身体適応論

☐スポーツプロモーション論
- ☐予防医学概説

☐エイジング論演習1・2

☐身体機能加齢適応論1・2

☐身体適応論演習1・2

☐ヘルスプロモーション論

☐アクティブエイジング研究演習1・2
- ☐行動適応論演習1・2

☐行動発達演習1・2

☐運動処方論

☐運動心理学
- ☐身体運動制御論

☐栄養学

☐乳幼児発達論

☐臨床心理学

☐健康行動科学
- ☐バイオメカニクス実験

☐健康政策論

教員からのメッセージ



汗からヒトにおける行動や適応の不思議さを探る

近藤 徳彦 教授(応用生理学, 運動生理学, 環境生理学)

ヒトの身体能力は他の動物と比較して優れているのでしょうか。大きな力を発揮することや短い距離を速く走る能力はゴリラやチータと比較するとかなり劣っています。それでは、長時間走る能力、それも暑い環境下ではどうでしょうか。長時間、マラソンレースなどの速さで走れるのは地球上でヒトのみで、例えば、マラソンレースの速さでイヌが真夏に走ると、15分程度で走れなくなります。この能力によりヒトは暑い中で狩りができ、それにより食料を確実に確保し、現在のような進化を遂げたと言われています。これは我々人類が汗という他の動物には類をみない、体外に熱を放散する強力な仕組みを獲得したからで、これはヒトの行動を支える大きな特徴で、ヒトを知る上でも重要であると思われます。しかし、ヒトにおいて優れている汗の機能に関しては多くの謎が残されており、この謎に、汗の不思議=ヒトの不思議、の観点から学生とともに取り組んでいます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡田 修一 教授	片桐 恵子 准教授	近藤 徳彦 教授	長ヶ原 誠 教授	増本 康平 准教授
加齢の身体運動科学	社会老年学, 社会心理学	応用生理学, 運動生理学, 環境生理学	スポーツプロモーション/健康行動科学, ジェロントロジー	高齢者心理学, 実験心理学, 認知心理学
高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価、及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。	高齢者の社会参加や街の歩きやすさと健康など、高齢者を囲む環境と高齢者に関する研究を質問紙調査やインタビュー調査などを用いて行っています。	物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から検討し、ヒトのからだの不思議にせまります。	成人・中高齢者を対象とした健康増進やスポーツ振興をテーマとして、健康的かつ活動的に年齢を重ねていくための支援方法を探究しています。	ひとの記憶・注意・感情・思考といった認知機能の仕組みや、加齢によるそれら認知機能の変化について実験心理学的手法を用いて研究しています。

主な卒業研究テーマ

- ・間欠運動における休息方法の違いが体温調節反応に及ぼす影響

・大学生の卒業後のサッカー競技継続に関する研究

・ジェスチャーの発話促進機能に関する研究

・お寺によるレクリエーション活動が参加者の地域交流と死生観に及ぼす影響

・いじめに対する価値観と生と死に対する態度の研究

・スマートフォンの使用が障害物歩行動作に及ぼす影響

・環境温の違いが情動ストレス時の心理的・生理的反応に及ぼす影響

・外見的魅力と人物情報が能力評価に及ぼす影響

・フロー経験と充実感

・体温上昇時のコーヒー飲用が安静時および精神的ストレス時の生体反応に及ぼす影響

・ネットオークションにおける落札価格に与える影響要因の研究

・野球の投動作における姿勢安定性と制球力に関する研究

・青年期における無気力傾向の要因分析

・段階的弾性ストッキングの素材の違いが安静および歩行時の循環・体温調節反応に及ぼす影響

・声の印象が人物の評価と記憶に与える影響

・立位姿勢における二重課題時の脳血流量と重心動揺及び下腿筋活動に関する研究

・アメリカンフットボールのパスプロテクション姿勢に関する研究

・片側荷物保持が立位姿勢及び上体の筋群に及ぼす影響

・ネイルケアが中高年女性のライフスタイルやQOLに及ぼす影響

・衣服の裾の開口が高湿度環境下における歩行時の体温調節反応に及ぼす影響

・高温環境下におけるクラシック音楽聴取が生体反応に及ぼす影響

・世代間公平性の問題と高齢者の投票行動の関係

・政治的有効性感覚と投票行動

・少子化対策の日仏比較

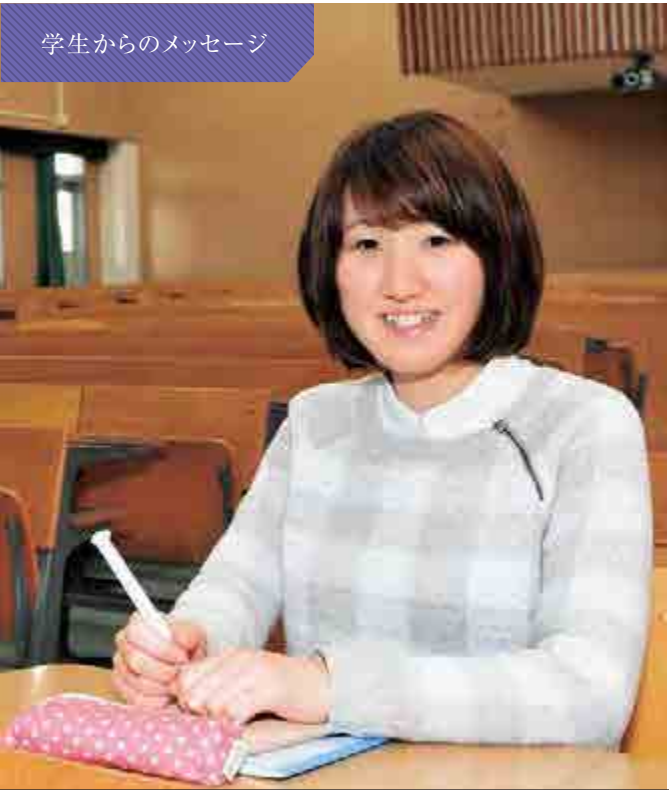
・大学女子ラクロス競技者の攻撃性に関する研究

居心地の良いアットホームなコース

原田 優里子 さん(行動発達論コース4年生)

とてもアットホームなコースです。コース行事は担当の回生が協力し合って運営をし、懇親会や合宿など、先輩後輩関係なくコミュニケーションをとれる機会がたくさんあります。また、大学では、先生方とお話させていただく機会も少ないですが、行動コースの先生方は、イベントごとにも必ず参加され、共に楽しんでくださるため、とても親しみやすいです。さらに、先生方の研究分野も様々なため、ゼミでの研究内容もとても幅広いです。私は、社会心理学を専攻していますが、実際に理系的な実験を行うゼミもあれば、スポーツプロモーションに重きを置きイベントを直接運営するようなゼミもあります。どのゼミを選ぶのか考えるのもとても楽しいと思います。また、友人どうしの会話でも、お互い異なった分野で勉強している分、良い刺激ももらえます。コース人数が少人数だということもありますが、何よりあたたかい人が多く、本当に過ごしやすい空気感のコースです！

学生からのメッセージ



身体行動論 コース

▶ Course Keyword 【コースキーワード】

- 体力・運動処方科学 □身体行動の心理
- 身体行動とスポーツ医学 □身体行動の社会学
- バイオメカニクス □体育・スポーツの歴史

人間の「行動」と「スポーツ」を科学するチーム

身体行動には日常生活を構成する基本的な運動から、気晴らしや健康のための軽い運動、スポーツのような人間が創造した身体文化に至るまで、実にさまざまな身体活動が含まれます。本コースでは、このような身体行動に関するさまざまな事象を自然科学・人文科学・社会科学的手法を用いて分析し、人間の発達および社会との関わりにおいて身体行動が果たす役割を究明すること、さらにはこれらの知見をスポーツ行動や生活の場に応用し、運動機能の向上を助け、よりよい身体行動の実践に貢献したいと考えています。代表的な授業科目としては、体育・スポーツ史、運動心理学、体力科学論、身体運動技術論、身体運動システム論、身体運動制御論、生涯スポーツ論、運動処方論などの講義があります。また、実験科目として、バイオメカニクス実験や運動生理学実験も用意しています。人間の運動を種々の測定機器を駆使

して、さまざまな手法を用いて分析し、人間の身体運動のメカニズムを自らの手で実験・解析することによって理解を深めます。実習科目では水泳系運動方法論、野外運動方法論など、学生と教員やティーチングアシスタント学生が宿泊をともにして海洋実習や六甲山縦走、スキー実習などを展開しています。3年次からは各研究室に分かれ、演習を中心に卒業研究を進めるために必要な知識や手法を学び、総まとめである卒業研究へと発展させていきます。さらには大学院への研究発展をも可能にできることを目指しています。



主なコース専門科目

- 体育・スポーツ史 □体力科学論 □水泳系運動方法論 □球技運動方法論 □運動心理学研究法
- スポーツ社会学 □身体適応論 □野外運動方法論 □武道系運動方法論 □体操運動方法論
- 運動心理学 □身体運動制御論 □スポーツマネジメント論 □舞蹈運動方法論
- 身体運動技術論 □身体運動システム論 □運動生理学実験 □体育・スポーツ史研究法
- 運動処方論 □陸上運動方法論 □バイオメカニクス実験 □スポーツ社会学研究法

教員からのメッセージ



様々な人の運動や健康維持に役立てる身体運動システム論

木村 哲也 准教授(身体システム学)

私の専門である身体運動システム論は、生理学・工学・物理学・情報学・現場経験等、様々な知識・経験を総動員する学問です。私自身も学生時代に水泳コーチをさせて頂き、当時の経験が今の研究に大いに役立っています。私の研究室では、ヒト二足立位バランスの仕組みの解明という基礎的研究から、基礎的研究の成果に基づいた運動補助器具の開発という応用研究まで幅広く研究を行っています。また、筋電図・心電図・血圧等の生体信号計測・解析技術を用いて、スポーツ健康科学分野の実践的な研究や栄養学・工学・心身医学の研究室との共同研究も実施しています。実験はメンバー全員が協力して行います。実験装置も既存のものだけではなく、研究目的に応じて皆で協力して作成します。ヒトを研究対象としていることから、ゼミでは仲間への思いやりやチームワークをより一層大切にしています。色々なことに興味を持ち、行動力のある皆さんをお待ちしています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

秋元 忍 准教授	河辺 章子 教授	木村 哲也 准教授	高田 義弘 准教授	高見 和至 准教授
体育・スポーツ史	運動生理学(身体運動制御)	身体システム学	運動生理学(身体コンディショニング)	運動心理学
スポーツの未来を展望するには、その過去と現在に関する深い認識が不可欠です。身体・スポーツ文化の過去を新しい視点から解明します。	ヒトの運動の発現のしくみから動きの巧みさを考えるとともに、どのようにして巧みな動作を身につけることができるかを探究しています。	ヒトの身体運動の神経制御メカニズムを明らかにする基礎的研究を行っています。基礎的研究から得られた成果をもとに、運動補助器具の開発などの応用研究にも取り組んでいます。	野球投手の障害予防や競技力向上のためにどのようなトレーニングを行えばいいのかを、疲労とパフォーマンスの変化から研究します。	運動やスポーツは「時間とエネルギーの消費」とも言えます。では何故、人は夢中になり、何を求めているのでしょうか。この人間の心理に潜む「何故」を探究しています。
前田 正登 教授	山口 泰雄 教授			
スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学	スポーツ社会学、生涯スポーツ論			
身体運動やスポーツのバイオメカニクスとして人間(選手)の動作・技術を解析します。またそれらの運動技術の習得過程に関する研究を行います。	スポーツの多様な社会的側面に焦点を当て、スポーツとまちづくり、スポーツ・ツーリズム、ボランティア、スポーツ政策などを研究しています。			



主な卒業研究テーマ

- ・ジュニアサッカーチームの合宿地選考におけるPull要因に関する研究
- ・青少年におけるスポーツ政策の政策評価に関する一考察―「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」に着目して―
- ・サッカー参加が地域愛着に及ぼす影響に関する研究―するスポーツとみるスポーツに着目して―
- ・マスターズ陸上競技選手における競技継続要因に関する研究
- ・大学生における運動・スポーツの阻害要因に関する研究―運動・スポーツ離脱者に着目して―
- ・日系新聞にみられるブラジルサッカー史像の変遷
- ・日本における子どもの真似(模倣)遊びへの注目―ホイジンガとカイヨワの遊び論の受容の検討から―
- ・女子サッカー日本代表の誕生
- ・日本における6人制タッチフットボールの普及 1991-2013年―関西女子リーグに着目して―
- ・戦後における盲学校体育研究の変遷―全日本盲学校教育研究会に着目して―
- ・大学運動選手における心理的成熟の契機となった経験に関する研究
- ・大学運動部における相対的年齢効果に関する研究
- ・テニスのサービスにおけるプレショットルーティン
- ・硬式テニス選手が試合で用いるセルフトーク
- ・アイスホッケー選手の身体運動特性について
- ・運動回復期における水分摂取時の水温の違いが自律神経系活動に与える影響
- ・水泳動作における主観的努力度と客観的出力の対応性―クロール泳とバタフライ泳の比較―
- ・加温が運動パフォーマンスおよび筋疲労に及ぼす影響について
- ・小学生の基本的動作能力とスポーツ傷害の関係について―コーディネーション能力の視点から―
- ・思春期の運動・スポーツ実施状況と栄養素等摂取状況の関連性の研究―中学生の運動歴、部活動に着目して―
- ・シューズのソール高と疾走時の接地様態の関係
- ・多目的グラウンドのコンディション維持に関する研究
- ・サッカーの直接フリーキックにおけるコースの蹴り分けに関する研究
- ・走運動における主観的努力度と疾走速度曲線の関係に関する研究
- ・フェイント刺激に対する二つのステップ動作の応答特性―誤反応の修正に着目して―
- ・ボール速度の予測がキャッチの応答に与える影響
- ・動作遂行へ向けた意識がパフォーマンスに及ぼす影響
- ・学童期における遊びの経験が青年期のスポーツ活動に及ぼす影響

スポーツの可能性を捉え、拡げることのできる場所

阪本 圭吾 さん(身体行動論コース4年生)

2020年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、今後日本におけるスポーツの活性化は様々な場面で私たちの目に触れることになると思います。今こそ私たちはスポーツの価値・役割を十分に知り、それを社会で活かしていく必要があるのではないのでしょうか。

そのために、身体行動論コースでは、最大の魅力ともいえるフィールドワークでの実技講義を筆頭にして、スポーツや運動の知識を深めることができ、かつスポーツの立場から様々な問題を考えていくことができます。

このような学びを通して、今に生きるスポーツの価値・役割を実感でき、スポーツの立場から多くの問題を考え解決していく能力を育てることがコース最大の特徴です。この能力こそ将来に活きるものだ確信し、今も学びを深めています。

このコースのおかげで、私はスポーツの可能性の深さとその魅力に、虜になりました。スポーツが大好きで、その魅力の虜になりたい方、是非一緒にこのコースで学びましょう!

学生からのメッセージ



人間表現学科

人間のあらゆる営みを、「表現」をキーワードに解明する

学科の理念

広い知識を授けるとともに、音楽、造形、パフォーミングアーツ等の人間の様々な表現や創造活動について教育研究を行い、教養並びに表現領域についての幅広い知識や個々の領域における専門的な知識及び技術を身に付け、研究、創造及び社会的実践に関する優れた能力を有する人材を養成することを目的とします。

学科の特色

表現の原初に立ち帰る

人の表現行為は、日常の何気ない所作や立居振舞から「芸術」と呼ばれるものまで、実に多様です。その現れ方は、音声や身振りに始まり、身体や道具を使つての音、色、かたち、香り、味などの創造へと多彩に発展しますが、すべては人間の五感に基づくものです。近年のテクノロジーの進歩は、この表現の実体までも曖昧にしていくなかですが、私たちは、変容し続ける人間の表現や表現行為について、まずその原初に立ち帰って考えます。



複眼的アプローチで挑む

表現は、私たちの生の反映です。私たちのひとりひとりの一挙一動には、その影響と反応を、無限に繰り返し共有するコミュニケーションのサイクルが内包されており、それが歴史を創るのです。その混然一体となって姿を変える人間表現の解明に、私たちは、「表現することの意味」や「表現する行為そのもの」、「表現されたもの」といった複眼的な視点から果敢に挑戦します。



アート/ヒューマンインターフェースの研究・開発を目指す

専門性を高めることは何より重要なことですが、その上で私たちが目指すのは、本来、分かちがたく渾然一体となった表現領域から細分化されてきた専門分野を、「表現」を鍵にして結び合わせようとする刺激的な教育研究の場です。ここから、多彩な表現世界を自由に往来して、深い人間理解と洞察のなかから新しい表現と価値を生み育て、人と人をつなぐ豊かなアートの創造と研究に携わる人材が生まれていくことを願っています。

履修コース

人間のあらゆる営みを、「表現」をキーワードに解明する

人間表現論 コース

定員：40名

▶P42



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・中学校教諭一種免許状(音楽)
- ・高等学校教諭一種免許状(美術)
- ・社会福祉主事任用資格*
- ・高等学校教諭一種免許状(音楽)
- ・学芸員*
- ・環境再生医資格*
- ・中学校教諭一種免許状(美術)
- ・社会教育主事*

学科長 塚脇 淳教授

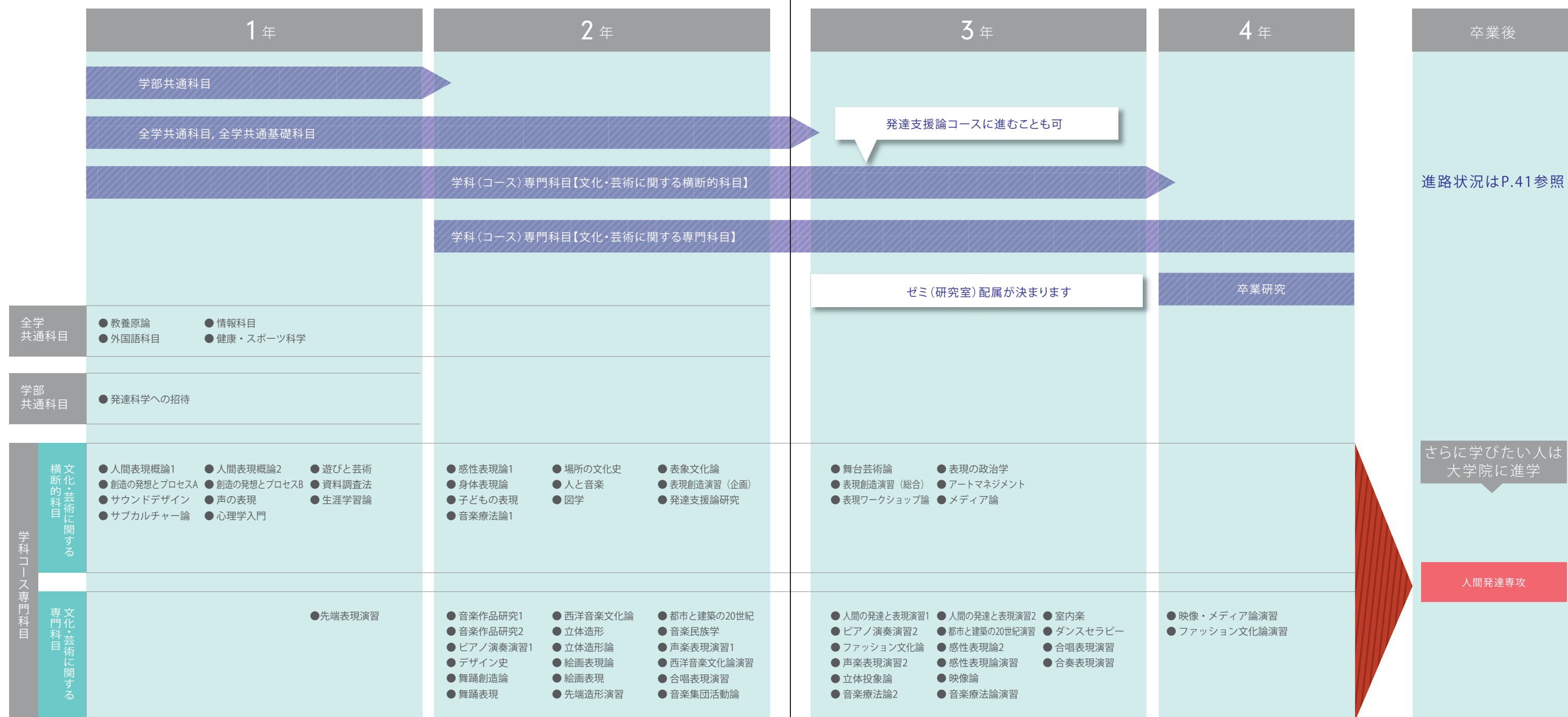
学科長からのメッセージ

私の最初の授業(創造の発想とプロセス)では、新入生に等身大の自画像を描いてもらっています。受講生は美術受験で入学した学生だけでなく、音楽や身体表現、学科試験や論文で入学した学生と多様です。当然、初めてデッサンをする学生もいて描くことの基礎から始めなくてはならないが、その大きさから、上手い下手といったことが意味を成さなくなり、終わってみれば皆それぞれ個性豊かな仕上がりになっています。そこには今現在の「私」が立ち現われています。

そしてそれに対峙する生身の自分。不思議で奇妙な感覚です。この授業の意味は、人間を研究する学部にあつて、まずは人間と等価・等身であることについて考えてもらうことにあります。「等身であることから出発し、等身であることに帰結する」。これが「表現」を学ぶときにはとても大切なことであると思うのです。そのことから人間のさまざまな営みや芸術や文化の研究に、そして地域性やグローバルといった観点においても、自分の立ち位置が見えてくるのではないかと考えています。



入学から卒業までの流れ・カリキュラム



進路状況はP.41参照

さらに学びたい人は
大学院に進学

人間発達専攻

ゼミ配属について

3年次からゼミ(研究室)に所属します。4年次には、指導教員の下、所属するゼミ(研究室)で卒業研究を行います。定められたルールに従って、所属するゼミを決定します。

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

公益財団法人
八尾市文化振興事業団 勤務

山田 真里江 さん
(人間表現学科 表現創造論コース 2012年3月卒
人間表現専攻 コミュニティアートコース 2014年3月修了)



表現学科で得た,今までの殻を 破った新しい自分

私はホールの企画制作スタッフとして,事業の運営やボランティアのサポート,広報物の作成等をしています。もとは教員を志望し,学部・大学院の間は学校音楽教育について研究しましたが,一筋縄ではいかないテーマに悩みながら「学校」や「音楽」について深く考え,自分自身を見直した結果,現在の仕事を選びました。

表現学科の何よりの特徴は,芸術の分野に捉われず,授業や先生方,仲間たちとふれ合えることです。表現からにじみ出る仲間たちの個性や,物事に対する感じ方の変化を何度も体験した学部時代,研究の内容も手法も違う仲間との日々の会話や,先生方のアドバイスから新たな視点を見出した大学院時代。学生時代に多様な表現を学び芸術への関心を深めた私の今の目標は,芸術の面白さを多くの人々に伝えることです。表現学科では自分の興味関心に真剣に取り組む姿勢が必要ですが,そこで得られるものはきっと,それまでとは違う新しい自分だと思います。

INTERVIEW 02

ストロング通商 勤務

福山 詩織 さん
(人間表現学科 表現文化論コース 2013年3月卒)



学生時代に学んだ物事のつながり, 社会人となって再確認

現在は靴の貿易会社で働いています。海外工場と日本のお客様とのやりとりが主な業務です。発注を受けてから製品としてお客様に届くまでには多くの工程があり,様々な人と関わることになります。複雑でありながら,どの工程も欠かません。すべてがひとつの目的に通じているのです。学生時代の留学経験や語学力を活かしたいと思い現在の仕事を選びましたが,実際には意識しないうちに培った多様な力が,今の仕事に活かしているように思います。

発達科学部には型にはまらず,色々なことに挑戦し,様々な考えを持つ人と関わるができる環境が整っています。人間表現学科では,芸術という広い領域を満遍なく勉強する機会がありました。それは実際に社会に出て,自分の経験するどのような物事にも意味があり,繋がりがあるという考え方を持つきっかけになったと思います。今では失敗も成功もすべて含めて,自分の成長につながるものになると実感しています。

INTERVIEW 03

公益財団法人 神戸市民文化振興財団
神戸文化ホール 勤務

石名 智子 さん
(人間表現学科 臨床・感性表現論コース 2010年3月卒
人間表現専攻 コミュニティアートコース 2012年3月修了)



ダンスの魅力に虜。生涯かけて携わ りたいものとの出会い

学部では,ダンサーと観客の関係性について身体感覚の共有という切り口から研究する一方で,多様なジャンルを専門とする仲間とその枠を超えて作り上げる舞台作品の創造に没頭しました。化学反応のように互いに影響し合う,本当に刺激的な日々でした。より深く学びたいと思い進学した大学院では,他研究科との連携により海外で作品を披露する機会を得られたことが特に印象的でした。このように視野を広く持ち多面的に学べる環境は,総合大学ならではの利点だと思います。

そして私は現在,公共ホールに勤め,自主事業の企画・運営の仕事に就いています。それも一度転職を経て。大学院修了後は一般企業(メーカー)に就職しました。やりがいのある仕事でしたが,やはり大学での学びを追求し続けたいという思いに改めて気付き,転職へと踏み切りました。アーティストや研究者とはまた違う視点で,ホールの職員として広くダンスの魅力を伝えてゆくことが今の私の目標です。

主な進路・主な資格免許の取得状況

旧表現創造論 コース

主な進路

2013年度	2014年度
・池田泉州銀行	・小野
・イトキン	・テイクアンドグヴ・ニーズ
・竹中工務店	・東映
・天満屋	・東京テアトル
・兵庫県国民健康保険団体連合会	・飛騨産業
・三菱東京UFJ銀行	・三井住友銀行
・山口銀行	・ゆうちょ銀行
・高槻市職員	・りそな銀行
・神戸大学大学院	・加古川市職員
人間発達環境学研究科(1名)	・兵庫県教員(小学)
	・神戸大学大学院
	人間発達環境学研究科(3名)

主な資格免許の取得状況

社会教育主事,社会福祉主事任用資格を除きます。

2013年度	2014年度
・中学校教諭一種免許状(美術)	・幼稚園教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(音楽)	・小学校教諭一種免許状
・高等学校教諭一種免許状(美術)	・中学校教諭一種免許状(美術)
・高等学校教諭一種免許状(音楽)	・中学校教諭一種免許状(音楽)
・学芸員	・高等学校教諭一種免許状(美術)
	・高等学校教諭一種免許状(音楽)
	・特別支援学校教諭一種免許状
	・学芸員

旧臨床・感性表現論 コース

主な進路

2013年度	2014年度
・アーテック	・旭化成
・エスコミュニケーション	・アド・ダイセン
・タイガー魔法瓶	・大塚商会
・武田薬品工業	・神戸製鋼所
・ディー・エル・イー	・積水化学工業
・日本生命保険相互会社	・阪急電鉄
・日本放送協会	・フォーミュレーションI.T.S.
・パソナ	・大阪府教員(特別支援)
・本庄メディカルクリニック	・加古川市職員
・みなと銀行	・神戸大学大学院
・ラプラス・システム	人間発達環境学研究科(1名)
・神戸大学大学院	
人間発達環境学研究科(1名)	
・神戸大学大学院	
国際文化学研究科	

主な資格免許の取得状況

社会教育主事,社会福祉主事任用資格を除きます。

2013年度	2014年度
・中学校教諭一種免許状(美術)	・中学校教諭一種免許状(美術)
・高等学校教諭一種免許状(美術)	・中学校教諭一種免許状(音楽)
・学芸員	・高等学校教諭一種免許状(美術)
	・高等学校教諭一種免許状(音楽)
	・特別支援学校教諭一種免許状
	・学芸員

旧表現文化論 コース

主な進路

2013年度	2014年度
・鷗来堂	・エイブル
・長沼	・神戸信用金庫
・兵庫大学職員	・ジェイアール東海高島屋
・星野リゾート	・大和ハウス工業
・三菱電機	・ニッセン
・ラクーン	・日本生命保険相互会社
・レオクラン	・兵庫医科大学職員
・兵庫県教員(小学)	・三井住友海上火災保険
	・三井住友銀行
	・ラリス
	・SODクリエイト
	・大阪府教員(中学)
	・兵庫県職員

主な資格免許の取得状況

社会教育主事,社会福祉主事任用資格を除きます。

2013年度	2014年度
・小学校教諭一種免許状	・中学校教諭一種免許状(数学)
・中学校教諭一種免許状(美術)	・中学校教諭一種免許状(美術)
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)	・中学校教諭一種免許状(音楽)
・高等学校教諭一種免許状(美術)	・高等学校教諭一種免許状(音楽)
・特別支援学校教諭一種免許状	・高等学校教諭一種免許状(数学)
・幼稚園教諭一種免許状	・高等学校教諭一種免許状(美術)
・学芸員	・高等学校教諭一種免許状(音楽)
	・学芸員

人間表現論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

□表現のしくみ

□表現の方法

□表現の歴史

□音楽療法

□創造と感性

□創造と認知

人間のあらゆる営みを、「表現」をキーワードに解明する

私たち人間は、遙か古の時代より、思考や感情を表現しようとする欲求に駆られて、さまざまな文化を生み出してきました。なかでも、音楽や造形、舞踊といった創造的表現はすぐれて人間的な行為であり、人間を語り、理解するうえで欠かすことのできない重要な営みです。こういった人間の表現について、私たちは、自ら「表現すること」を通じて、あるいは「表現することの意味」や「表現する行為そのもの」、「表現されたもの」といった重層的・複眼的な視点から総合的に探究していきます。そのために、人間表現学科では、まず人間の創造的表現に関する概論を中心とした(文化・芸術に関する)横断的科目群を幅広く履修し、人間の表現に関わる問題群へアプローチするためのさまざまな考え方や方法を多面的に学びます。こうした横断的な一連の学習の成果を参照しつつ学ぶ方向性を見定め、個別の表現領域に軸足を置いた専門科目群の履修を通じて、より専門的に学んでいきます。

たとえば、音楽や美術・デザイン、舞踊に機軸を置いた実践的研究を通じて人間の創造的表現の可能性を多面的に追求したり、あるいは個別の表現領域の枠を超えた総合的な表現の創造に挑戦することも可能でしょう。また建築、デザイン、メディア、ファッション、音楽文化といった近現代において独自の展開を見せてきた人間の創造物や表現行為に関わる歴史や物質文化を、政治や経済、社会、技術といった様々な文脈から学ぶことも可能でしょう。あるいは、音楽療法やダンス療法などの諸芸術療法、感性や心理をもとにした新しいアート・ヒューマンインターフェースの可能性を探ることも可能でしょう。このように、私たちは、人間の様々な表現や創造活動についての幅広い知識と技術を身に付け、研究、創造及び社会実践に関する優れた能力を有する人材の養成に果敢に挑戦したいと思っています。

主なコース専門科目

- 人間表現概論1・2

□創造の発想とプロセスA・B

□表象文化論

□人と音楽

□アートマネジメント

□表現創造演習(企画・総合)
- 場所の文化史

□メディア論

□表現の政治学

□舞台芸術論

□音楽作品研究1・2

□ピアノ演奏演習1・2
- 立体造形

□舞踊創造論

□ファッション文化論

□人間の発達と表現演習1・2

□音楽民族学

□西洋音楽文化論
- 絵画表現

□映像論

□都市と建築の20世紀

□音楽表現演習1・2

□音楽療法論1・2

□デザイン史
- 立体投象論

□ダンスセラピー

教員からのメッセージ



医療、福祉、教育現場における「音楽」の可能性を考える

岡崎 香奈 准教授(音楽療法・即興演奏)

私の研究室では、音楽療法に関連するテーマを幅広く取り扱っています。まだ日本では、職業としてあまり認知されていない領域ですが、欧米では対人援助専門職の一つとされています。音楽を聴取するだけでなく、音楽療法士と共に歌ったり楽器を演奏したりすることを通して、発達障害や認知症、失語症など、様々な困難を抱える方に多くの変化が現れます。

音楽療法における現象を探索する作業は、単に音楽の作用を検証するだけでなく、人間と音楽との本質的な関係性を問いかける重要なきっかけとなります。特に私の専門は「即興表現を活用した音楽療法」です。医療、福祉、教育現場における「音楽表現」の臨床的可能性を探求したい方は、ぜひその扉を開けてみてください。

ゼミでは、文献による講義だけでなく、実践症例の映像・音源の紹介や音楽活動を体験する演習形態を取り入れることを特色としています。「人間が音楽する」意味を、共に探索してみませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

梅宮 弘光 教授	大田 美佐子 准教授	岡崎 香奈 准教授	小高 直樹 教授	岸本 吉弘 准教授
近代建築史	近現代音楽史、音楽美学	音楽療法、即興演奏	感性科学、図形科学	絵画表現
20世紀の建築について研究しています。とくに日本の大正期、昭和戦前期。実際に建てられたものだけでなく、計画倒れや夢に終わったものも興味深いです。	両大戦間の音楽文化の諸相(音楽・音楽劇における伝統の継承とその展開、受容の問題)について研究しています。	医療、福祉、教育現場における音楽の臨床的活用について研究しています。特に「表現者としての人間」が即興演奏する行為と、そのプロセスで生起する要素を検証しています。	芸術家の技や個性、デザイナーの暗黙知といった、曖昧で多義的な感性の世界、いわば形容(動)詞の世界を科学的に取り扱うための方法を探究しています。	現代における「絵画表現」を実践的(実技)また理論的(研究)な両側面より追求し、より本質的な人間表現としての「絵画」像を模索しています。
佐々木 倫子 教授	関 典子 准教授	谷 正人 准教授	田畑 暁生 准教授	田村 文生 准教授
声楽	舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究	民族音楽学・異文化理解教育	社会情報学、映像論	作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究
クラシックの声楽曲の中で、日本・ドイツ・ロシアの歌曲を中心に研究・実践しています。どの歌曲も語るように歌うことがテーマです。	ダンスや身体表現の特質である「現存性」や「コミュニケーション」について、表現活動と研究活動をフィードバックしながら探究しています。	イラン音楽を題材に、「即興」「オリジナリティ」などの諸概念を研究しています。最近ではイラン国外に亡命した音楽家達も視野に入れつつ、伝統音楽の教授法の変遷やウェアリエーションを調査しています。	現代は情報社会と呼ばれ、さまざまな情報メディアが社会で利用されていますが、その機能や影響について、特に映像メディアを中心に、研究しています。	音楽作品の様式・実態・機能の分析により、音楽の作られ方・聴かれ方を研究しています。様々な演奏形態での音楽表現の多様性を、作品の創作によって提示しています。
塚脇 淳 教授	野中 哲士 准教授	坂東 肇 教授	平芳 裕子 准教授	
美術、彫刻	認知科学、生態心理学	器楽(ピアノ、室内楽)	ファッション文化論、表象文化論	
20世紀の美術、特にロダン以降の抽象彫刻について研究教育しています。私自身は彫刻家として構成的抽象彫刻を制作し、国内外に精力的に発表しています。	「表現」は外部環境との接点で起こる活動です。人のふるまいが周囲の環境にどのような価値を採りあてているのか、乳児発達、熟練技能、人工物のデザインなど様々な場面で観察しています。	音の中に込められた想いはどのような形をとって表現となり人の心に達するのか。ピアノ演奏におけるコミュニケーションに内在する原理を探究しています。	ファッションとそれを取りまく文化の歴史を明らかにすることによって、西洋近現代を中心とするファッションと女性との関わりを考察しています。	



環境とふるまいの出会いに生まれるダイナミックな秩序を見つめる

野中 哲士 准教授(認知科学・生態心理学)

ラスコーの洞窟画を見に行ったとき、洞窟壁の起伏が動物のからだに見立てられて、自然の凹凸を利用して絵が描かれていることにびっくりしました。私たちの「まわり」は白紙ではありません。さまざまな構造をもつ「まわり」に私たちは参加し、いろいろな意味や価値を発見して、他の人と共有しています。私の研究室では、人が「まわり」にどのような価値(アフォーダンスと呼ばれます)を見つけているのかを観察しています。現メンバーの研究テーマは幼児の粘土遊びの発達、こどもが字を書けるようになるまで、ピアノ練習過程における注意と視線、エスカレーターに乗る時の外部イベントとの同期パターン、工芸のわざの伝承場面に見られる言葉と状況作り、慣れた街を移動する人の自在感が依拠するランドマーク等です。人のふるまいや人工物の構造をその「まわり」とのダイナミックな出会いから眺める広義の「表現研究」に関心がある方、ぜひ一緒に研究しましょう。

教員からのメッセージ



人間表現論 コース

主な卒業研究テーマ

- ・ジャクソン・ポロックとジャズ—即興における絵画と音楽の関連性—
- ・企業イメージとロゴの関係性
- ・フェルッチョ・ゾーニ研究 パッハ『シャコンヌ』における編曲の概念をめぐって
- ・男性服における異性装ファッション—男性服の歴史から考察する—
- ・自治体による路上演奏者支援政策—大阪パフォーマーライセンス制度はなぜ機能していないのか—
- ・ミュージカル史における『ライオンキング』
- ・物語の内容と装丁デザインのマッチングに関する研究
- ・絵本を利用したキャラクタービジネス—絵本『くまのがっこう』の商業展開を例に—
- ・1960年代～現代までのJ-popのヒット曲に関する考察
- ・奈良美智の絵画と現代人との同時代的な共感性について
- ・昭和初期におけるフランス派の音楽観—音楽雑誌の記事分析を通して—
- ・バレエにおける男性の位置づけの変遷—19世紀後半ロシアにおけるバレエ男性ダンサーと振付家の活躍を例に—
- ・バレエテクニクにおけるピラティスの効果の検証
- ・精油の香りの印象を表わす色彩と形についての研究—PCCSにおける色及びトーンの印象と香りの印象との関係性に着目して—
- ・1970年代神戸における人と街と音楽—喫茶店・ライブハウス文化から見た都市の文化空間的構造—
- ・公共空間における音環境デザイン研究—発達科学部A棟「D-Room」の音環境を考える—
- ・舞踊表現における共有感に関する考察
- ・L.V.ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ第9番イ長調作品47『クロイツェル』における演奏解釈
- ・「着ぐるみパフォーマンスの変遷～キャラクター文化の観点から～」
- ・基本感情に基づく感動する物語のストーリー構成についての研究
- ・図形記憶における聴覚刺激の影響に関する研究
- ・観光政策によって形成される都市イメージに関する研究 1930年代の神戸市を事例として
- ・チェコ音楽における民族性のゆえ—「場」における民族性の創造・真実と虚構の混在—
- ・ショパンのエディション比較研究—ポロネーズop.44を例に—
- ・カミーユ・コロー《モルトフォンテーヌの思い出》に見る「ゆらぎ」の表現
- ・バットシェバ舞踊団メソッドGAGAに関する考察～メタファーの引き起こす原初的心性との関連から～
- ・戦後から現代までの小学校第6学年図画工作教育の鑑賞領域に関する一考察—日本文教出版教科書を資料として—
- ・「道化の華」におけるメタフィクション構造の効果
- ・宝塚歌劇『ベルサイユのばら』の「型」に関する考察
- ・アンリ・エルツ(1803-1888) 19世紀の大衆に持て囃された音楽家
- ・シュルレアリスムにおける「共有」の模索
- ・テレビ・コマーシャルにみられる表現と作用～コミュニケーションと芸術性の視点から～
- ・草間彌生の自己療法的芸術における葛藤—描く行為と心理—
- ・日本のピアノ制作の在るべき姿を探る—大橋幡岩のピアノ製作を例に—
- ・ポピュラー音楽受容における同調と差異化—若年層のアイデンティティを巡って—
- ・ジョルジュ・バルビエ研究—ファッション・プレートを中心に—

好きなことを学ぶということ

野呂 弥生 さん(旧表現文化論コース4年生)

私は高校生の時からファッションデザインに関心がありました。ですから、大学では、この自分の好きなことを学びたいと思っていました。じつは高校生の頃は、授業はどうしても好きになれなかったし、学ぶことが楽しいとは思っていませんでした。そんなときに人間表現学科のオープンキャンパスに参加しました。そこで平芳裕子先生のファッション文化論「どうしてシャネルは成功したのか?」という模擬授業を受けたとき、ここでは私の好きなことが学べる! と確信したのです。

学問は学んでも学んでもわからないことばかりです。時には嫌になることもあるかもしれません。しかし自分の好きなことであれば、わからないに出会うたび、楽しくてしょうがありません。私にとっては、それがファッション文化論です。大学や学科を選択する理由は人さまざまですが、自分の好きなことを学ぶために人間表現学科を選択してほんとうによかったと思っています。

学生からのメッセージ



学生からのメッセージ



わたしの表現学科Life —ゼミでの研究と表現創造演習

齋藤 優香里 さん(旧表現創造論コース4年生)

ピアノや歌などの実技と、論文を書く研究、両方できることを魅力に感じ、この学科に入学しました。現在ゼミ活動と、表現創造演習での活動に力を入れています。

ゼミでは、チャールズ・アイヴズという作曲家の楽曲分析をしています。毎週レジュメを準備し、先生や他の学生からアドバイスをもらい、次のゼミに生かす。地道な作業ですが、1人の作曲家についてとことん考えを深めていくのは面白いです。また、培った論理的思考力は、今後社会に出た時に役立つものだと感じています。

表現創造演習では、舞台の企画から公演までを全て学生が行います。この学科には、プロとして創作活動をするなど、様々な能力を持った仲間がいます。皆の力を結集して一つの舞台作品を創り上げることは苦労もありますが、大きなやりがいがあります。

大学では、主体的に授業を選び時間を使うことができます。入学したら、あなただけの表現学科Lifeを楽しんでください。

社会をしあわせにする「デザイン」を創造していきたい

太田垣 歩 さん(旧臨床・感性表現論コース4年生)

本当の豊かさやしあわせとは何だと思いますか。私は、この学科で幅広い知識や専門的な分野を深く学ぶことで、自分なりの考えや哲学が身につくと感じています。私はこれまでに高齢者や障がい者、動物など、言葉で気持ちを伝えることが難しい相手の立場に立って考える機会が多くありました。相手の立場で考え、想像し、理解して何かができる、社会全体がそうであれば本当の豊かさやしあわせにつながるのではないのでしょうか。

ゼミではデザインと行動の心理について研究しています。これは身体表現や音楽、美術の様々な要素が組み合わさったもので、この学科で勉強してきたからこそ見つけられたテーマだと思っています。どうすれば社会がもっと楽しく、人びとがよりしあわせになれるか、学んだことを社会に還元する道を考えながら、この学科で学んだ自分だからこそできることを、デザインを通して社会に貢献したいと思い、日々の研究に取り組んでいます。

学生からのメッセージ



人間環境学科

人間発達を支える新たな環境の創造と持続を目指して

学科の理念

人間環境学科では、学生の皆さんは広い知識を身に付けるとともに、人間の発達の在り方に深くかかわる環境の諸問題を総合的・学際的に探究することを学びます。具体的には自然環境、数理情報環境、生活環境及び社会環境の視点から、理系・文系の枠を超えて幅広い教養と多様な専門的知識を身に付け、それらの統合・融合を積極的に図ることを目指しています。これらの学びを通じ、新たな人間環境の創造に向けて理論的・実践的な問題解決の力を得ようとする意欲的な皆さんを、人間環境学科はお待ちしております。

学科の特色

学際性 — 理系・文系の枠組みを超え、多様な知を融合させる

人間の発達と環境の関係をめぐる諸問題は、特定専門分野の方法だけでは捉えられない複雑な構造を有しています。それを理解するには、これまでの学問分野の構成にとらわれず、複数の分野からの複眼的な視点をもつ必要があります。本学科では、理系・文系の枠組みを超え、多様な学的知見の融合をはかり、人間環境に関する諸問題に幅広い視野からアプローチできる人材を養成します。

専門性 — 高度な専門性に根ざし、環境の理解に立ち向かう

他方で、学際的な勉強・研究は、専門性という拠点があつてはじめて成り立ちます。複雑で多様な人間環境を理解するためには、しっかりした専門分野をもち、その固有の論理に立脚したうえで、多様な視点を身につける必要があります。本学科は、自然環境論、数理情報環境論、生活環境論、社会環境論という四つの履修コースを擁し、それぞれにおいて高度な専門教育を行います。

実践性 — 問題解決に必要な力を能動的に身につける

人間が発達できる環境をどのように形成し、維持するかは、理論上の問いであると同時に、優れて実践的な課題です。現に私たちは、環境に関する多彩な問題状況に取り巻かれ、その解決を必要としています。本学科は、講義に加え、実験、調査、フィールドワーク、演習、実習などを重視することによって、人間環境の諸問題を実証的に分析し、その解決に能動的に挑戦する人材を養成します。



履修コース

科学の幅広い視野から自然環境の本質を探究してこそ、答えが見えてくる

自然環境論 コース

定員：35名

▶P52



数理と情報が生み出す精密な道具を手に、情報の海を旅しよう

数理情報環境論 コース

定員：25名

▶P54



日常生活の現場から環境のあり方を追究する

生活環境論 コース

定員：30名

▶P56



人間の発達と社会の発展を多様な視点の総合から学ぶ

社会環境論 コース

定員：30名

▶P58



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・中学校教諭一種免許状(理科)
- ・中学校教諭一種免許状(数学)
- ・中学校教諭一種免許状(社会)
- ・中学校教諭一種免許状(家庭)
- ・高等学校教諭一種免許状(理科)
- ・高等学校教諭一種免許状(数学)
- ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)
- ・高等学校教諭一種免許状(家庭)
- ・学芸員*
- ・社会教育主事*
- ・社会福祉主事任用資格*
- ・環境再生医資格*

学科長からのメッセージ

学科長 平山 洋介教授
(生活環境論コース)

私たちを取り巻く環境は、グローバル化、気候変動、資源枯渇、高度情報化、少子高齢化などによって、大きく変わろうとしています。この状況のなかで、人間環境学科は、人間の発達を支える環境の構築を目指し、次のような特徴をもつ教育と研究に取り組んでいます。第一は、学際性です。本学科は、理系・文系の枠を超え、多様な学的知見の統合をはかり、幅広い視野を備えた人材を育成します。しかし同時に、高度な専門性をも重視する点に特色があります。本学科は、専門教育のために、自然環境論、数理情報環境論、生活環境論、社会環境論という四つのコースを擁しています。さらに第三は、実践性です。本学科では、講義だけでなく、実験、調査、フィールドワーク、演習、実習などに力点を置き、人間環境をめぐる諸問題に果敢に挑戦する姿勢を養成します。



		1 年	2 年	3 年	4 年	卒業後		
		学部共通科目		発達支援論コースに進むことも可				
		全学共通科目, 全学共通基礎科目						
		学科共通科目		コース専門科目		進路状況P.51参照		
		コース配属が決まります		ゼミ(研究室)配属が決まります		卒業研究		
全学共通科目		●教養原論 ●外国語科目	●情報科目 ●健康・スポーツ科学					
共通専門基礎科目		●物理学B1・B2 ●物理学C1・C2・C3 ●無機化学基礎 ●有機化学基礎 ●生物学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	●基礎地学 ●線形代数学入門 ●線形代数学1・2 ●微分積分学入門 ●微分積分学1・2	●物理学B3 ●物理学C4 ●物理学実験	●数理統計学 ●人文地理学 ●外国史	●日本史		
学部共通科目		●発達科学への招待						
学科共通科目		●人間環境学概論 ●自然環境概論	●数理情報環境概論 ●社会環境概論 ●生活環境概論	●統計の考え方 ●環境モデリング入門	●発達支援論研究			
自然環境論	●自然科学演習 ●自然科学総合演習	●自然環境科学実験A・B・C ●自然環境科学 ●環境地球科学A・B ●現代物質科学 ●現代物理化学A ●現代生命科学A ●宇宙史	●大気環境学 ●環境計測学A ●鉱物学 ●植物環境学1・2 ●生活環境緑化論1 ●生物多様性論 ●自然環境科学特論A・B	●自然環境総合演習 ●情報処理演習 ●環境数値解析1 ●応用数学入門・同演習 ●数理の基礎 ●解析系の基礎 ●数理統計の基礎	●現代物理化学B ●現代生命科学B ●環境物理学実験 ●物質環境科学実験 ●生物環境科学実験 ●地球環境科学実験 ●野外生物学実習 ●分子生命科学実習 ●地球環境科学特別講義 ●地球環境変遷学 ●宇宙環境物理学 ●無機化学 ●環境植物生態学 ●科学哲学論	●環境遺伝学 ●環境地球化学・同演習A ●環境計測学B ●生活環境緑化論2 ●環境経済学 ●公衆衛生学 ●身体適応論 ●環境物理学 ●量子物理学 ●基本粒子物理学 ●分析化学 ●環境有機化学 ●生物有機化学 ●化学反応論	●量子化学 ●高次分子生命科学 ●生物環境科学 ●動物行動生態学 ●環境地質学・同演習1 ●地球流体力学 ●人間環境学総合演習 ●環境数値解析2 ●生命情報科学A ●生命情報科学B ●応用解析学A ●応用統計学A ●情報環境科学A・B・C	●環境地球化学・同演習B ●環境地質学・同演習2 ●現代物質科学演習 ●環境物理学特別演習 ●生命情報科学B ●生命情報科学A ●応用解析学A ●応用統計学A ●情報環境科学A・B・C
数理情報環境論	コース配属について 2年次より各履修コースに所属します。各履修コースの定員は次のとおりです。1年次終了時に行うガイダンスで希望を調整し、履修コースを決定します。 自然環境論 コース 35名 数理情報環境論 コース 25名 生活環境論 コース 30名 社会環境論 コース 30名		●数理の基礎 ●数理と計算機 ●計算機科学A・B ●幾何系の基礎	●解析系の基礎 ●代数系の基礎 ●数理統計の基礎 ●生活環境メカニクス1	●生活環境電子計測論1 ●社会調査法	●生活環境メカニクス実験 ●ヒューマンエレクトロニクス実験 ●数理認識発達論 ●メディア論 ●応用数理特論1 ●情報環境特論1	●応用数理特論2・3 ●情報環境特論2・3	
生活環境論		●生活環境基礎実験 ●生活環境調査法 ●生活空間計画論1・2 ●生活環境心理学 ●生活環境緑化論1	●衣環境学1・2 ●生活環境メカニクス1 ●生活環境電子計測論1・2 ●食環境学1・2 ●植物環境学1・2	●生活環境共生論1・2 ●栄養学 ●現代生活論 ●ライフスタイル論1・2	●生活環境緑化論2 ●住宅設計論 ●生活電気・機械 ●生活環境メカニクス2 ●生活エネルギー機器論 ●食環境学実験 ●衣環境学実験	●ヒューマンエレクトロニクス実験 ●ライフスタイル論実習 ●植物環境学実験実習 ●食環境学実習 ●生活環境共生論実習 ●生活環境心理学演習 ●生活環境緑化論演習	●衣環境学演習 ●動作解析コンピュータ演習 ●植物環境学演習 ●生活環境共生論演習 ●ライフスタイル論演習 ●環境経済学	●生活環境メカニクス実験 ●生活空間計画論演習
社会環境論	ゼミ配属について 3年次からゼミ(研究室)に所属します。4年次には、指導教員の下、所属するゼミ(研究室)で卒業研究を行います。各履修コースで定められたルールに従って、所属するゼミを決定します。		●社会規範論A・B ●社会文化環境論 ●産業社会環境論A・B ●地域社会環境論A・B ●国際社会環境論 ●社会環境思想史 ●社会変動史	●産業構造論 ●労働史 ●コミュニティ論 ●国際平和論 ●地域空間システム論 ●現代日本社会史 ●生活空間計画論1・2	●生活環境心理学 ●現代生活論 ●生活環境緑化論1 ●社会調査法 ●教育思想史	●都市地域論 ●社会政策史 ●福祉国家論 ●農村開発論 ●フィールドワーク実習 ●憲法秩序論 ●公共性論 ●家族論	●自治体論 ●国際開発論 ●環境経済学 ●生活環境緑化論2 ●環境植物生態学 ●数理と論証 ●メディア論 ●公共性論演習A・B	●社会環境思想史演習A・B ●社会文化環境論演習A・B ●産業構造論演習A・B ●労働史演習A・B ●都市地域論演習A・B ●コミュニティ論演習A・B ●国際開発論演習A・B

さらに学びたい人は
大学院に進学

人間環境学専攻

さらに学びたい人は
大学院に進学

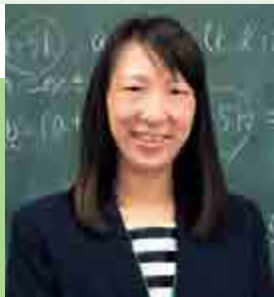
人間環境学専攻

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

兵庫県立西宮高校教員

中山 美理 さん
(2005年3月卒)



「教科書数学だけでなく+αを提供できる教師でありたい」

私が数学教諭として働き始めて、今年で10年目になります。教師の仕事は、授業はもちろん、クラス経営や行事企画、進路指導など様々です。しかし10年目の今、教師の根幹はやはり授業であり、その授業を支えているのは大学4年間の学びであると強く感じています。

大学では、それまでに見たことのないような定理をじっくり証明したり、複雑な微分方程式を解くなど、専門性の高い数学を学ぶことができました。4回生では、統計学の研究に取り組みました。実際に生のデータを扱うことで、「社会に役立つ数学」を実感することができました。また、文理混合の学科で出会った友人たちは、現在多様な分野で活躍し、「この本が授業に役立つのでは?」など、新鮮なアドバイスを提供してくれます。

こうして今、鶴甲での4年間で私の授業を支えていることは間違いありません。数学が好きな高校生が1人でも増えるよう、これからも授業研究を続けたいと思います。

INTERVIEW 03

日本放送協会 勤務

溝口 純司 さん
(発達科学部人間環境学科社会環境論コース
(澤ゼミ・太田ゼミ) 2013年3月卒)



大学での学び・経験×探究心=テレビ番組制作でということ

「ホームレス」「フェアトレード」「持続可能性」—大学時代に学んだこれらのテーマ、実はこれまで私が担当した番組のテーマでもあります。

私は入学時、将来の夢はありませんでした。そんな私が社会環境論コースで学んだのは、問題意識を持って現場に出ること。ゼミではテーマを決めて各地へフィールドワークに出かけました。貧困の調査ではフィリピンに行ったり、卒論ではホームレス研究で西成の日雇労働者の街に通いました。こうした経験を重ねるうちに、「今やっていることを仕事にしたい!」と思い始めました。そして私はTVディレクターになる夢を見つけました。

今は夢が叶い、「問題意識を持って現場に出ること」で、多くの人に自分の興味関心事をわかりやすく伝える仕事をしています。このように発達科学部では様々な経験を重ね、追い続けたいと思えるテーマを見つけられました。将来が見えない人にこそ、この学部で未来を見つけてほしいと思います。

INTERVIEW 02

環境省自然環境局生物多様性センター
(一般財団法人)自然環境研究センター
より派遣)勤務

前川 恵美子 さん
(人間環境科学科 2008年3月卒)



幅広い学問と、多様性豊かな人たちに囲まれて成長できる場所

現在、環境省の生物多様性センターで技術専門員として勤務しています。植生調査の経験をもとに日本全国の植生図を整備する仕事をしています。都会育ちですが、小学生の頃から自然が好きで環境保全の仕事がしたいと考えていました。

発達科学部では自然環境論コースに進み、神戸市内の団地をフィールドに植物生態学の卒業研究を行いました。生態学だけでなく、基礎物理学、分析化学、地質学、細胞生物学などさまざまな分野の知識・考え方を得られたことは私の人生を大きく広げてくれました。私のこれまでのキャリアは決して順風満帆ではありません。在学中は悩み多き学生で、卒業時には家庭の事情のため就職も進学も出来ず、卒業後もキャリアサポートを受けていました。今の私があるのは、発達科学部のあたたかい先生方、職員の皆さん、そして同じく学びをともにする多様性豊かな人たちの中で、ゆっくり着実に成長することができたお陰だと大変感謝しています。

INTERVIEW 04

日立造船株式会社 勤務

左近 祐佳子 さん
(発達科学部人間環境学科 生活環境論コース
2014年3月卒)



ここまで幅広い分野を学べる学科はこの人間環境学科だけ!!

私はメーカーで再生可能エネルギー発電設備の営業をしています。ただ設備を売るだけではなく、事業運営をお客様と考え、様々な分野の方を巻き込みながら案件を進めていく仕事です。

私は環境問題に興味があり、文系・理系両方の視点から環境を考えられるこの学科を志望しました。そのため大学時代は理系科目も積極的に履修し、幅広い分野から環境問題について学びました。卒業論文では地域の労働者数から農業残渣バイオマス生産量を予測し、将来性評価を行いました。このように幅広い分野から環境問題を学び、この問題を改善する仕事に携わりたいと思い今の会社を志望しました。現在の仕事では、製品の技術的説明から経済性評価など幅広い知識が必要であり、大学時代に学んだ文系・理系両方の視野で物事を見るという考え方が非常に役立っています。人間環境学科に入ったからには、理系文系関係なく、自分の興味のあることを積極的に学んでください!

主な進路・主な資格免許の取得状況

自然環境論 コース

主な進路

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・花王カスタマーマーケティング | ・京阪電気鉄道 |
| ・関西アーバン銀行 | ・セブンーイレブン・ジャパン |
| ・キリンビバレッジ | ・神戸市教員(中学・高校) |
| ・シミック | ・神戸市職員 |
| ・トヨタ自動車 | ・和歌山県職員 |
| ・阪急電鉄 | ・大阪大学大学院理学研究科 |
| ・富士通システムズ・ウエスト | ・京都大学大学院地球環境学舎 |
| ・三井住友銀行 | ・神戸大学大学院 |
| ・三菱東京UFJ銀行 | 人間発達環境学研究所(18名) |
| ・兵庫県教員(高校) | ・北海道大学大学院農学研究院 |
| ・神戸大学大学院 | |
| 人間発達環境学研究所(13名) | |
| ・名古屋大学大学院環境学研究所 | |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|------------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・中学校教諭一種免許状(理科) | ・中学校教諭一種免許状(理科) |
| ・高等学校教諭一種免許状(理科) | ・高等学校教諭一種免許状(理科) |
| ・環境再生医 | ・学芸員 |
| | ・環境再生医 |

生活環境論 コース

主な進路

- | | |
|----------------|-----------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・伊藤工機 | ・インテリジェンス |
| ・ヴィス | ・関西電力 |
| ・関電不動産 | ・滋賀銀行 |
| ・ソフトバンクモバイル | ・住友ゴム工業 |
| ・大和ハウスインシュアランス | ・第一生命保険 |
| ・中央コンピューター | ・ダイキン工業 |
| ・東レ | ・東レ |
| ・日立造船 | ・南海国際旅行 |
| ・広島銀行 | ・ニトリ |
| ・兵庫医科大学 | ・日本総合研究所 |
| ・兵庫大学 | ・博報堂 |
| ・フィールズ | ・ベネッセコーポレーション |
| ・マイナビ | ・マックスバリュ東海 |
| ・毎日新聞社 | ・三菱電機 |
| ・三菱商事ファッション | ・ランドブレイン |
| ・三菱東京UFJ銀行 | ・JA全農 |
| ・りそな銀行 | ・JR西日本 |
| ・MUS情報システム | ・神戸税関 |
| ・SUS | ・神戸地方検察庁 |
| ・神戸市職員 | ・法務局 |
| ・奈良市職員 | ・大阪大学大学院生命機能研究科 |
| ・農林水産省 林野庁 | ・神戸大学大学院 |
| ・広島市職員 | 人間発達環境学研究所(2名) |
| ・神戸大学大学院 | |
| 人間発達環境学研究所(3名) | |
| ・名古屋大学大学院 | |
| 創業科学研究科 | |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|------------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・中学校教諭一種免許状(家庭) | ・中学校教諭一種免許状(家庭) |
| ・高等学校教諭一種免許状(家庭) | ・高等学校教諭一種免許状(家庭) |
| ・学芸員 | |
| ・環境再生医 | |

数理情報環境論 コース

主な進路

- | | |
|----------------|-----------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・さくらケーシーエス | ・近畿大学附属豊岡高等学校 |
| ・成学社 | 中学校教員 |
| ・千趣会 | ・コベルコシステム |
| ・ワオ・コーポレーション | ・山陽電気鉄道 |
| ・USEN | ・セプテーニ・ホールディングス |
| ・WAVE | ・日本通運 |
| ・大阪府教員(高校) | ・明光ネットワークジャパン |
| ・兵庫県教員(高校) | ・大阪府教員(中学) |
| ・神戸大学大学院 | ・滋賀県教員(高校) |
| 人間発達環境学研究所(8名) | ・兵庫県教員(高校) |
| ・大阪教育大学大学院 | ・神戸大学大学院 |
| 教育学研究科 | 人間発達環境学研究所(3名) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|------------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・中学校教諭一種免許状(数学) |
| ・中学校教諭一種免許状(数学) | ・高等学校教諭一種免許状(数学) |
| ・高等学校教諭一種免許状(数学) | |

社会環境論 コース

主な進路

- | | |
|-------------------|----------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・ウイングル | ・ウィル |
| ・関西アーバン銀行 | ・高岡信用金庫 |
| ・関西医科大学 | ・竹中工務店 |
| ・キャンノンシステムアンドサポート | ・ブリヂストンケーबीジー |
| ・コスモ石油 | ・堀場テクノサービス |
| ・スズキ | ・社会福祉法人 ゆうゆう |
| ・全国農業協同組合連合会 | ・リンク・アイ |
| ・東急不動産 | ・西日本電信電話 |
| ・ハート介護サービス | ・大阪府教員(中学) |
| ・パソナ | ・パソナキャリアカンパニー |
| ・姫路商工会議所 | ・香川県職員 |
| ・三菱マテリアル | ・西宮市職員 |
| ・リコージャパン | ・兵庫県教員(中学) |
| ・DNPメディアクリエイト | ・兵庫県職員 |
| ・石川県職員 | ・福井県職員 |
| ・国土交通省神戸運輸監理部 | ・法務局 |
| ・財務省近畿財務局 | ・京都大学大学院 |
| ・奈良県教員(小学) | 人間・環境学研究所 |
| ・兵庫県職員 | ・神戸大学大学院 |
| ・神戸大学大学院 | 人間発達環境学研究所(3名) |
| 人間発達環境学研究所(1名) | ・神戸大学大学院 |
| ・神戸大学大学院 | 国際協力研究科 |
| 国際協力研究科 | |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 2013年度 | 2014年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・中学校教諭一種免許状(社会) |
| ・中学校教諭一種免許状(社会) | ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) |
| ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) | ・高等学校教諭一種免許状(公民) |
| ・高等学校教諭一種免許状(公民) | |
| ・幼稚園教諭一種免許状 | |
| ・学芸員 | |

自然環境論 コース

- ▶ Course Keyword (コースキーワード)
- 自然環境の多角的理解 □物質環境
 - 異分野との相互刺激 □地球環境
 - 環境物理学 □生物環境

科学の幅広い視野から自然環境の本質を探究してこそ、答えが見えてくる

環境問題に根本から取り組もうとするならば、自然の成り立ちや法則を本質から理解することが必要不可欠です。特に現在は、人類が宇宙へと本格的に足を踏み入れた宇宙時代の黎明期とも言うべき時代です。人類がこの時代にふさわしいアイデンティティーを確立できるか否かは、宇宙の創成と進化、太陽系や地球の形成の歴史、さらに物質の化学進化を経て生命の誕生と進化に至る壮大な歴史と、その中の個々のプロセスとを科学的に解明してはじめて得られる、透徹した認識にかかっていると言えるでしょう。環境問題の根本への取り組みも、こうした広い認識があって初めて可能となるのです。だとするなら、現在求められているのは、物理、化学、生物、地学など旧来の学問枠組にとらわれず、対象によって自分自身のポジションを自在に変えながら、広い視野から状況に応じた解決策を見出すことに他なりません。

主なコース専門科目

- 環境地球科学A・B

□現代物質科学

□現代物理化学A・B

□現代生命科学A・B

□大気環境学
- 環境計測学B

□鉱物学

□植物環境学1・2

□生物多様性論

□地球環境科学特別講義A・B
- 宇宙環境物理学

□無機化学

□環境植物生態学

□環境遺伝学

□環境地球化学・同演習A・B
- 環境物理学

□量子物理学

□分析化学

□環境有機化学

□生物有機化学
- 化学反応論

□量子化学

□高次分子生命科学

□生物環境科学

□環境地質学・同演習1・2



教員からのメッセージ

健康で豊かな生態系を守るための新たな手法開発

源 利文 特命助授(水域生態学,環境生理学)

生物多様性減少の問題を耳にする機会が多くなってきました。特に水中生物の多様性低下が深刻だと言われています。では、どこにどんな生物がどれだけのいるのか、どうやって調べればいいのでしょうか。簡単そうですが、実は簡単ではないのです。

私の研究グループでは、水中の環境DNA分析という生物調査手法を開発しています。水中には微生物のような生物それ自体が含まれているのはもちろんのことですが、排泄物や分泌物を通して生物から出てきたDNAが大量にあります。これを分析すると、そこに棲む生物のことがいろいろと見えてきます。将来的にはコップ一杯の水から、どんな生物がどんな状態でいるのか、つまり生物たちの国勢調査と健康診断を同時にやってしまうことができと思っています。健康で豊かな生態系を守ることは、生態系サービスに依存している人類社会にとって必須であり、その保全に寄与する研究は今後ますます重要になるでしょう。

スタッフと研究分野・研究テーマ

青木 茂樹 教授	蘆田 弘樹 准教授	伊藤 真之 教授	丑丸 敦史 教授	榎本 平 教授
素粒子・宇宙線物理学	光合成・酵素学	宇宙物理学, 科学教育	植物生態学	分子生物学
素粒子および宇宙線に関する実験的な研究をしています。	植物や藻類の光合成機能の解明とその環境問題解決への応用。特に、光合成炭素固定酵素RuBisCOに注目し、触媒・機能発現機構、構造活性相関、分子進化など様々な角度から研究を行っています。	人工衛星等によって得られるデータを用いた宇宙の観測的研究や地域社会における市民科学活動支援システムの構築に関する研究をしています。	花（被子植物）の形質進化や多様性創出機構および里山や都市域における生物多様性保全を目的とした希少種の分布特性・環境依存性の解明を目指しています。	高増殖性・高重油生産性を有する重油生産藻類 Botryococcus brauniiの開発に関する研究や遺伝子クローニング技術の開発を行っています。
江原 靖人 准教授	蛭名 邦禎 教授	大串 健一 准教授	齊藤 惠逸 教授	佐藤 春実 准教授
生物有機化学	環境物理学, 理論生命科学	環境地質学, 地球環境科学	分析化学	高分子化学・環境調和型高分子学
生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。	地球システムと生命システムのダイナミクスを理解するための基礎理論の構築と、環境問題に係わる科学研究の成果の批判的な検討を行っています。	地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。	発光現象を利用した物質の分析法、有機化合物を用いた金属イオンセンサー、ストレスマーカー測定法の開発に取り組んでいます。	環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とx線回折法を用いて研究を行っています。
高見 泰興 准教授	田中 成典 教授	寺門 靖高 教授	源 利文 特命助教	
進化生態学	計算生物学, 理論生命科学	環境地球化学	水域生態学, 環境生理学	
地球上の多様な生物が、どのように生き、維持されているのかについて、形態学、行動学、生態学、進化学の各視点から研究しています。	タンパク質やDNA、RNAなどの生体分子に対する計算機シミュレーションや原子・分子のマイクロなレベルからコンピュータ上で構築する理論構造生物学について研究しています。	河川水、生物が作る鉱物、地殻を構成する岩石・鉱物などの様々な地球表層物質についての元素濃度や同位体組成を用いた地球環境の地球化学的研究を行っています。	主に河川や湖沼を対象として、広い意味での生態学・環境生理学に取り組んでいます。環境DNAなど、新しい技術の開発も行っています。	

主な卒業研究テーマ

- ・近赤外分光法を用いた、紫外線照射によるポリ乳酸(PLA)の分解挙動

・ポリ乳酸繊維の生分解性と風合いについての研究

・赤外分光法を用いたジェランガムのゲル化機構に関する研究

・ポリグリコール酸とポリ乳酸の共重合体の結晶構造と熱挙動の研究

・赤外分光法,X線回折法を用いた低分子量ポリヒドロキシブタン酸(PHB)の結晶構造及び熱的挙動の研究

・Ru錯体化学発光法を用いたHPLCによる人工尿中のメチルマロン酸検出の再検討

・ルテニウム錯体化学発光法を用いたメチルイミダゾール検出法の開発

・L-システインによるマロンジアルデヒド誘導体化反応の基礎的検討

・金属錯体を利用した還元性物質検出法の開発

・マンノース修飾DNAの合成

・ラクトースおよびN-acetyl-D-galactosamine修飾非天然DNA合成における条件の検討

・ヒトインフルエンザウイルスと結合する糖鎖修飾核酸の合成とその評価

・チョウセンカマキリの雄による雌の選択 ～多産な雌か？ 満腹な雌か？～

・土地利用の変化によるカエルの減少
- ・環境DNAとマルチプレックスPCRを用いたサンフィッシュ科外来魚3種の同時検出法およびコイ科の絶滅危惧種カワバタモロコの検出法の開発

・緑藻クラミドモナスの炭素濃縮関連遺伝子群のクローニング

・グリセリン処理法によるBotryococcus brauniiの単細胞化の培養条件検討

・新規オイル生産藻類Botryococcus braunii-MDKの細胞学的な観察

・新規オイル生産藻類Botryococcus braunii-MDK“もどき”の遺伝子解析

・河川水および海水中における人為起源のガドリニウムについて

・ヒ素(III)・ヒ素(V)の測定方法の検討及び六甲山付近の水中のヒ素分析

・月周回衛星SELENE搭載α線検出器(ARD)による月面α線の時間変動の解析

・SELENE/ARDによる月面隕石衝突に伴うラドンガス放出イベントの探査

・太陽活動極大期「すざく」衛星データによるX線アルベドの研究

・FFASTミッション望遠鏡有効面積の入射角依存性を考慮した時の検出天体数再評価

・GRAINE計画 次期フライトに向けた準備状況 新乳剤フィルムの性能評価

・エマルション望遠鏡による宇宙ガンマ線精密観測計画 GRAINE 乗鞍岳におけるフィルム性能評価試験および大気ガンマ線観測

幅広い知識と魅力的な人が集まり・繋がる場所

矢井田 友暉 さん(自然環境論コース2年生)

自然環境論コースでは、2、3回生の間に物理・化学・生物・地学の4分野全ての講義と実験が受けられるため、高校で勉強した内容を生かして、さらに深く、広い実践的な知識を身に付けることができます。これは、現代の世界に山積する様々な自然環境問題に対する研究が、多数の領域に跨って相互に関わっているため、それらに対応した広い視野が必要であるからです。また、私はそうした日頃の勉強の中から自分が興味を持った分野を見つけ、調べるところから、研究が始まりました。

このコースのもうひとつの特徴として、先輩方との強い繋がりを感じられることが挙げられます。2回生になり配属が決まってしまうとすぐに行われる全員参加の合宿や、毎年開催されるスポーツ大会やバーベキューなどを通して、先輩方と仲良くなり、勉強を教えて頂いたり、就職についての悩みを聞いて下さったりしてもらっています。このような恵まれた環境が揃う場所は他にないと思います。

学生からのメッセージ



数理情報環境論 コース

- ▶ Course Keyword (コースキーワード)
- 情報環境 □数理的手法の理論と応用
 - 現象の数理的モデル化 □情報処理の理論と実務
 - 論理的思考 □統計的手法の理論と応用

数理と情報が生み出す精密な道具を手に,情報の海を旅しよう

アメリカの調査会社によると,2006年のデジタル情報の総量は,これまでにかれた全書物の情報量の数百万倍にのぼるそうです。しかもその量は数年でさらに数倍に増えたとも言います。この膨大で多様な情報の海が,人間の知的発達や産業構造に多大な変化を与えつつあることは言うまでもありません。こうした現代の情報環境で,情報の海に漂流することなく様々な問題を解決するには,何よりも信頼できる精巧な道具が必要です。そしてその基礎的技法を与えるのが数理情報環境論コースなのです。

このコースでは,数理的理論を基礎から応用まで幅広く学ぶこと,様々な情報環境問題を数理的に捉え,解析し,処理する能力を養うことを2つの柱にしています。2年次では,具体的な問題解決に必要な数学や情報科学の基礎理論を学びます。論理的な思考にもとづいてものご

とを正確に表現するトレーニングを行い,プログラミングやネットワークに関する基礎知識を習得します。3年次では,次の3つの領域で学んでいきます。情報数理では,情報環境を構成するコンピュータを理論的に考察し,計算やプログラムのしくみなど情報そのものがもつ数理的メカニズムの解明を目指します。応用数理では,自然科学や社会科学に現れる様々な現象を数学的な視点からモデル化するとともに,そのモデルをコンピュータで詳しく解析する方法についても学びます。情報統計では,私たちの身近に存在する様々なデータを考え,情報のもつ理論的な背景を考察し,統計学的な問題解決の方法について学びます。そして3年次後半から4年次にかけて,いよいよ各自で課題を設定し,これまでに身につけた道具を駆使して問題の解明を目指し,結果を卒業論文にまとめます。情報の海を縦横無尽に旅したいあなたをお待ちしています。

主なコース専門科目

- 数理の基礎 □解析系の基礎 □数理と論証 □応用統計学A・B・C □情報環境特論1・2・3
- 数理と計算機 □代数系の基礎 □計算機数学 □数理情報先端特論
- 計算機科学A・B □数理統計の基礎 □応用解析学A・B □情報環境科学A・B・C
- 幾何系の基礎 □応用代数学 □応用幾何学A・B □応用数理特論1・2・3



教員からのメッセージ

論理的な思考力や未来に向かう創造力を養う

高橋 真 教授 (数理情報環境論コース)

「未来はひと筋の道の先にただあるのではない。未来は我々が決めるものであり,すでに知られている宇宙の法則に反することのない限り我々が望む方向にきっと向かわせることができる。」米国のコンピュータ科学者アラン・ケイの言葉です。私たちを取り巻く情報環境は日々変化していきますが,どのような未来に向かうのか,それを決めるのは若い人たちです。

私たちの研究室では情報社会の基盤を数理的な視点から整備する課題に取り組んでいます。例えば,モデル検査法とよばれるソフトウェアの信頼性を向上させる手法を学んでいます。私たちの身の回りにはライフラインに関わるため正しく間違いくなく動くことが要求されるソフトウェアが多々あります。そのようなソフトウェアが正しく動くことを数学的理論を基礎にした方法で確かめようというものです。それぞれのテーマの探求を通して学生のみなさんには論理的な思考のできる創造性豊かな人材に育ってほしいと願っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

(P) 2016年3月で退職予定

稲葉 太一 准教授	桑村 雅隆 教授	阪本 雄二 准教授	高橋 譲嗣 教授 (P)	高橋 真 教授
数理統計学, 応用統計学, データ解析	応用解析学	数理統計学	数理論理学	情報論理学
統計学は, データを解析することから始まります。学部生の間に, 自分の興味を持てるテーマを選び, 適切な統計手法の適用方法を研究することを目的としています。	物理学, 化学, 生物学などに現れる問題を解析学 (微分積分学を基礎としている数学の一分野) とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。	水の流れの中を漂う花粉の運動や株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について, そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。	論証による証明を効率よく理解し, かつ正しく書くために有効な実践的知恵の体系化, 及び数理的方法全般の数理論理学的手法を用いた考察に取り組んでいます。	システム検証 (ソフトウェアが信頼できるかどうかを数学的な方法で検証する方法) と公理的集合論 (集合の理論を公理的に扱う体系) を研究しています。
長坂 耕作 准教授	宮田 任寿 教授			
計算機代数	幾何学的トポロジー			
数値・数式融合計算 (パソコン上で様々な計算を行うために必要な理論研究やプログラミングによる実現) と, その応用 (ICTによる様々な分野への展開) について研究しています。	様々な図形をトポロジーと呼ばれる「柔らかな幾何学」によって分類したり, その考え方や技術を数学内外の様々な分野に応用する研究をしています。			

主な卒業研究テーマ

- ・数理論理学と超準解析について
- ・自然数論とゲーデルの不完全性定理について
- ・定理証明支援系Cogについて
- ・形式的仕様記述とその検証ーRIBファイルを生成するプログラムの検証に向けてー
- ・形式仕様記述とモデル検査
- ・測度と積分の理論の初歩
- ・微分方程式の解の存在定理について
- ・2階変数係数線形微分方程式と境界値問題
- ・Pocket Cubeの解法と手数
- ・2D Orientation Problemに対する数値計算による判定手法の考察
- ・ランダムフラクタル
- ・Digital topology
- ・Game theory and the Nash equilibrium
- ・Fixed points and an application to Economics
- ・遺伝的アルゴリズムを用いたマルチエージェントシステムの構築
- ・倒産企業の統計的分析
- ・数理モデルを用いた保険料の算定
- ・ゴルフ場の来場者データの解析 ～営業戦略のためのヒント～
- ・学力の地域間格差に関する統計的分析と考察
- ・正規確率場の最大値の分布 tubeの方法とその応用
- ・インフルエンザによる学級閉鎖の基準制定の影響
- ・統計的に見るプロテニスプレーヤーの勝利要因
- ・モデル検査の基礎とUPPAALによる検証
- ・統計学における近似公式について
- ・連続ドラマ視聴率の解析
- ・スクイークEtoysとDr.Geoを用いた数学教育への活用
- ・「教科書仲介サイト」の機能とデザインの考察
- ・Androidによる手書き計算アプリケーションの設計と開発
- ・より快適なWebブラウジングの為のユーザ補助の検討

すばらしい仲間と環境で学びたいことが学べる大切さ

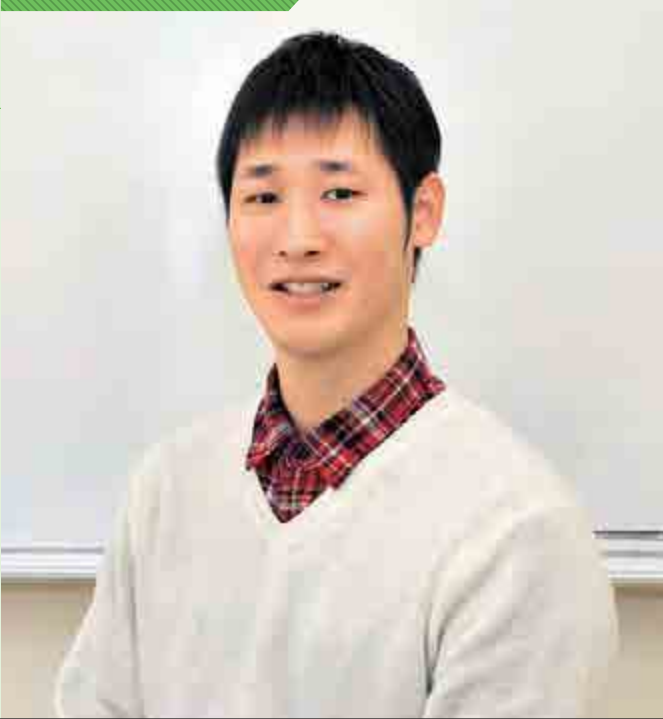
杉本 光太郎 さん (数理情報環境論コース4年生)

私は高校数学の教師になりたいと思い, 人間環境学科に入学しました。そして2年生で行われるコース分けでは数学をメインで扱う数理情報環境論コースに進みました。ここでは解析学や幾何学といった大学数学の様々な分野を学ぶことができるので日々新しいことを知ることができ, 毎日が充実しています。またコースには毎年15人前後の学生しかいないので学生同士の結びつきは強く, 授業でわからないことがあってもみんなで協力して解決することが出来ます。特にテスト前では夜遅くまで残って問題を解き合ったり話し合ったりしたこともありました。

このように数学に明け暮れている毎日ですが, 一方で疲れたときには通称「数理部屋」というところで学生同士が休憩し, わいわいしています。また年に何回か数理のスポーツ大会や交流会なども行われ適度に息抜きも出来ます。

楽しく真剣に数学を学ぶことができるこの数理情報環境論コースは私にとって最高の場所です。

学生からのメッセージ



生活環境論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

□生活の質(QOL)

□安全・安心

□持続可能

□生活空間

□生活技術

□生活資源

日常生活の現場から環境のあり方を追究する

昔,「大人になる」とは親世代と同じ暮らしをすることでした。しかし現代の私たちは、誰も「大人になれば親世代のように暮らす」などとは思えません。私たちの暮らしと、それを取り巻く環境との変化は、それほど激しく急速になっています。日々創られる最先端技術は日常生活の利便性を高める一方で、暮らしと環境に関わる新たな課題も生み続けています。生活の基礎条件である衣食住さえ、つねにその様相を変え続けています。さらに住まいから近隣、都市までの生活を取り巻く空間の変貌ぶりは言うまでもありません。私たちの生活環境は、かつてなく複雑な状況の中に置かれているのです。

そこで生活環境論コースは、日常生活と環境の関係をどのように理解し、組み立てるべきかという問題に対処できる人材の養成を目指しています。具体的には私たちが暮らし、働き、憩うための空間をどのように創造すべきかについて、住居、福祉施設、緑地、都市などの空間

の実態を調べ、生活環境のあり方を考える「生活空間領域」、さまざまな技術が、衣食住にかかわる生活用品や健康と福祉にかかわる機器などにどのように用いられ、暮らしの環境に影響を及ぼしているか、その現状を把握し、技術利用の方向性を考える「生活技術領域」、食糧、水、エネルギーなどの資源環境と暮らしがどのような関係をもつべきのかを追究し、生活のための資源利用・保全・管理の方法を考える「生活資源領域」という3つの領域から生活環境を捉えます。実験、フィールドワーク、シミュレーションを組み合わせて生活環境の分析を進め、生活製品設計の提案、福祉機器開発、食糧生産のあり方、まちづくりへの参画、高齢者施設計画への参加、環境負荷低減など、実践的なプロジェクトを重視して問題解決のための教育・研究を行っています。

主なコース専門科目

- 生活環境基礎実験

□生活環境調査法

□生活空間計画論1・2

□生活環境心理学
- 生活環境緑化論1・2

□衣環境学1・2

□生活環境メカニクス1・2

□生活環境電子計測論1・2
- 食環境学1・2

□植物環境学1・2

□生活環境共生論1・2

□ライフスタイル論1・2
- 現代生活論

□住宅設計論

□生活電気・機械

□栄養学
- 生活エネルギー機器論

教員からのメッセージ



多面的な視点とチャレンジ精神で衣環境を極める

井上 真理 教授(衣環境学,感性工学)

毎日の生活に欠かせない衣服は、持ち運びできる環境と呼ばれています。衣服は人間が本来備えている生理的な機能をカバーするとともに、深海から宇宙にまで行動範囲を広げることが可能にしました。衣環境研究室では、繊維、糸、布または皮膚に関する基礎研究とともに、衣服、紙おむつなどの衛生用品をはじめ、住居や自動車などに用いられる繊維製品を対象に、着心地、使い心地といった感覚を客観的に評価する研究を行なっています。

人を主体とした品質の高い繊維製品を、伝統的な天然繊維から先端技術としての高機能繊維まで含めた有限な資源を利用して、適切な用途に応じて設計することを研究テーマとしています。ハイテクノロジーが身近な生活にどんどん入り込んでいるこの時代、技術に翻弄されるのではなく、利用しながら主体的に生きていくことが必要です。生活そのものを多面的に観察し、チャレンジ精神を持ち、身近なことに問題意識を持った人材を育てていきたいと考えています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

(P) 2016年3月で退職予定

井上 真理 教授	近江戸 伸子 教授	大野 朋子 准教授	佐藤 真行 准教授	城 仁士 教授 ^(P)
衣環境学, 感性工学	環境バイオテクノロジー	植物環境学	ライフスタイル論, 環境経済学	生活環境心理学
着用品・使用感の良い製品設計のために、繊維状材料をはじめ生活の中で人が触れて用いる材料の特性と人間の感覚との関係を捉える研究を行っています。	農業、医療、食糧生産、環境保全に貢献するため、人間生活の中で変化する環境に対応する植物バイオテクノロジーに関連する研究を行っています。	人間活動と植物との関係性を探求し、人が関わった景観の形成とあり方について研究しています。特に人間と農作りの深いタケノコについて、東南アジア諸国でのフィールドワークを中心に生態や文化、遺伝的多様性に関して複合的に分析し、竹林の維持や管理に関わる問題について研究しています。	環境・資源制約のもとでの経済システムと、そのときの人々のライフスタイルの分析を中心に、生活の質と社会・環境・経済の持続的発展について研究しています。	身近な生活環境での人間活動の心理学的解明を行っています。研究者と研究対象者の協同的実践で新たな人間科学的意味の再発見に努めています。
白杉 直子 教授	田畑 智博 准教授	平山 洋介 教授	福田 博也 准教授	矢野 澄雄 教授
食環境学	環境システム工学	生活空間計画	生体電子計測・ヒューマンエレクトロニクス	振動工学, バイオメカニクス
食生活が生み出す環境問題(台所排水の汚濁負荷、過剰肥料による地下水の窒素汚染)に関する研究や食品成分からみた味覚研究を行っています。	地域、個人等、様々なレベルでの環境負荷の発生要因やその構造を調査、解析し、解決に導くための手法論を提案する研究を行っています。	住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構築すればよいのか、という問題を理論と実証の双方から考えています。	人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。	日常生活動作を力学的に分析し、骨や筋肉などの身体機能・特性を計測して福祉・介護や健康科学関連の機器・用具の開発などにかかわる研究を行っています。

主な卒業研究テーマ

- ・くまモンのPR戦略が与えた心理的影響と今後のキャラクター広報戦略

・笑顔認知における性差

・Facebook におけるトラブлやストレスの実態とその対策

・繊維素材や糸構造の違いが熱・水分移動特性に及ぼす影響

・綿布の仕上げ加工が材料特性と着用感に及ぼす影響

・レディーススインナーにおける材料の物理特性と着心地の関係性について

・ボディタオルの肌触りと物理特性

・人工芝のねじり特性とその耐久性能

・高齢者の生活空間としての商店街

・ストリートダンサーの都市空間

・東日本大震災における広域避難者の住宅確保と生活再建

・団地再生への親子ネットワークの役割

・アンデスのご飯はなぜまずいのか？ ―アンデス地方の米飯の再現と物理・化学的特性の検討―

・ハンバーグステーキの焼成条件の違いが消費エネルギー及び CO2 排出量に及ぼす影響

・乳酸の塩応答増強効果に関する研究 ―クロキンバエ味細胞を用いた電気生理学実験

・子どもの道草空間としての商店街
- ・古書店のある都市空間

・我々の預金に伴うカーボンフットプリントはどれくらいか？

・農業従事者数の変化が農畜産系バイオマス生産量に及ぼす影響の評価 ―兵庫県におけるケーススタディー

・ZigBeeを用いた床反力無線計測システムとデータ処理ソフトウェアの開発

・洗いざらしシャツのしわ感評価と洗濯耐久性

・布製衛生用シートの触感和物理特性との関係

・不織布の風合いの客観的評価と素材・構造が物理特性に及ぼす影響

・茶園における減肥が緑茶のアルミニウム含量に及ぼす影響

・有機栽培と慣行栽培緑茶の香気成分の比較 ―ヘッドスペース固相マイクロ抽出法によるGC-MS分析―

・バイオ燃料植物ジャトロファの花の形態学的研究

・遺伝子導入によるジャトロファの早期開花個体の作出

・組織培養法を用いたホホバの効率的なシュート形成

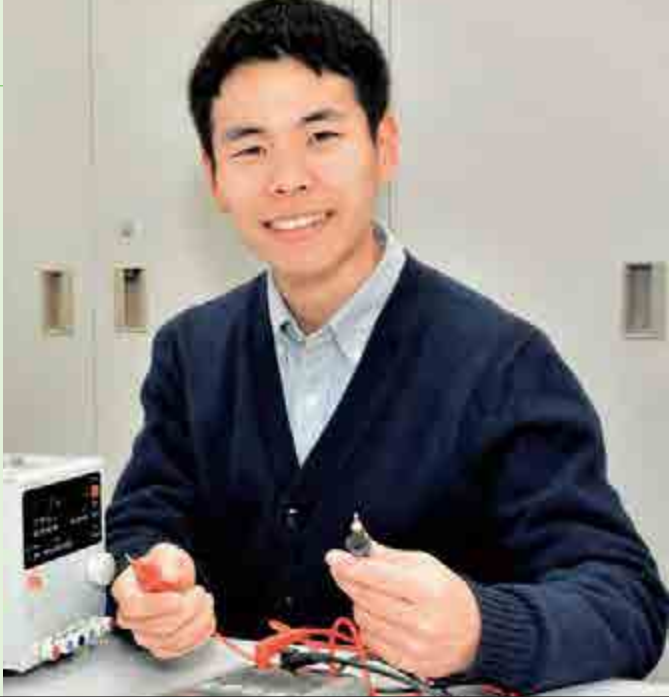
生活へ様々な角度から切り込み,自ら問題解決へ

鎌田 庸平 さん(生活環境論コース4年生)

生活環境論コースの魅力は、人の生活に関わる問題を様々な視点から捉え、学び、自ら問題解決に向けた研究が出来ることです。このコースでは、食べる、着る、衣服を着ること、家やコミュニティ内で暮らすこと等、生活に関わる多彩な分野の問題を学ぶ機会があります。それぞれの生活行動が人の心身の健康や経済活動、自然環境にどのような影響を及ぼすのか、講義や実験を通して多角的にアプローチすることで、生活について深く考えることが出来ます。

私は現在、歩行や寝起きのような日常行動を計測・評価し、生活の質向上へ役立てることに興味を持ち、各種センサーを用いて新たな計測手法を探っています。身近なテーマだからこそ、実生活に直接貢献できる可能性があると感じ、やりがいを感じています。ここで出来ることは実に多種多様で、先生方も含めて様々なことに興味を持つ人が集まっています。色々な角度から刺激を受けられるのもこのコースの特色です。

学生からのメッセージ



社会環境論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- グローバル化
- 新自由主義
- 地域社会
- 第三世界
- 文化変容
- 公共性

人間の発達と社会の発展を多様な視点の総合から学ぶ

「社会」とは不思議なものです。一方で、社会とは一人一人の人間の集合であり、つまり社会を形作っているのは他ならぬ私たちです。そして私たちはこの社会の中で、迷いや力不足を感じつつも、他の人たちとともに少しでも幸せに、充実して生きていこうとしています。より良い生き方を目指して他の人たちと協働する場、それが社会であるはずですが。

しかし他方で、私たちはこの社会の中で、必ずしも思うように生きていくことができません。いや、「思うように」どころか、せめて「もう少しマシな」生き方を目指すことさえ簡単ではないのが現実でしょう。むしろ様々な壁に囲まれ、「生きにくい」と感じている人も少なくないようです。しかもその苦しみや不安、窮屈さは、最近ますます強まっています。一体どうすれば今の状況を変えられるのか。そして何を目指して進むのか——こう

した問題を考えるのが、社会についての新しい学問である【社会環境論】です。

【社会環境論】では、社会を人間の自由な発達のための環境として捉えます。今の社会で私たちはどんな状況に置かれているのか、私たちはなぜ今のような社会を作り出したのか、一人一人が充実して生きるためにはどんな社会が良いのか、そしてそうした社会を私たち自身がどう作り上げるのか。これが【社会環境論】のテーマです。

ですが、このテーマに取り組むには社会を多面的に見る必要があります(社会全体にかかわる問題を一つの解法で解けるわけではありません)。そのために【社会環境論】は様々な分野(政治、経済、法律、歴史、地理…)をベースにしながら、その枠を越えた学問を目指してチャレンジしています。あなたもこのチャレンジに参加してみませんか?面白さは保証つきです。

主なコース専門科目

- 社会規範論A・B
- 社会環境思想史
- 国際平和論
- 福祉国家論
- 自治体論
- 社会文化環境論
- 社会変動史
- 地域空間システム論
- 農村開発論
- 国際開発論
- 産業社会環境論A・B
- 産業構造論
- 現代日本社会史
- フィールドワーク実習
- 環境経済学
- 地域社会環境論A・B
- 労働史
- 都市地域論
- 公共性論
- 国際社会環境論
- コミュニティ論
- 社会政策史
- 家族論

教員からのメッセージ

都市システムから都市の形成・変容について考えてみよう。

山崎 健 教授(都市地理学)

地理学には、都市を点として捉える立場と面として捉える立場があります。都市システムの観点は、都市を点として捉える立場です。ただし都市を点として捉えると言っても、個々の都市は決して孤立して存在しているわけではありません。相互に様々な関連しあい、影響を与え合っているのが現実の姿です。そこで都市システムをみることは、都市どうしの空間的な相互関係に注目することでもあります。そこには、人口・財・金融・情報・アイデア・イノベーションなど多様な相互関係がみられますが、都市システムの大きな特徴は、地球・国・地域レベルで一つのまとまった空間的なシステムを形成していることです。しかも、都市システムはつねに変動していますので、過去および未来の歴史的展開について考えることも重要です。私のゼミでは、このような都市システムというフレームワークから、都市の形成・変容について考えています。一緒に考えてみませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

浅野 慎一 教授	井口 克郎 講師	岩佐 卓也 准教授	太田 和宏 准教授	岡田 章宏 教授
社会文化環境論, 社会学	経済学, 社会保障	社会政策	途上国政治経済	社会規範論, イギリス統治構造論
国境を越えて移動する人々を主な対象として、歴史に翻弄されながらも、自ら主体的に新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。	人間の生活と発達を保障する社会保障制度について、医療・福祉分野を中心に研究しています。特に災害被災者の生活保障に取り組んでいます。	新自由主義的な制度改革と社会編成が進行するなかで、雇用のルールはどのように変容してきているのか、賃金問題などを焦点に研究しています。	グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。	近現代におけるイギリス地方自治の形成と展開を検討の対象としながら、住民自らが自治を行う可能性とそのあり方について研究を行っています。
澤 宗則 教授	橋本 直人 准教授	山崎 健 教授		
人文地理学, 地域社会論	社会思想, 社会学史	都市地理学		
グローバル化にともなう地域社会の変容、特に開発途上国インドの農村の変化、先進国の移民社会の形成について、現地調査に基づいて研究を行っています。	ドイツの哲学・社会学を中心に、これまで現代社会がどうとらえられてきたかを研究することで、社会と人間に関する新しい考え方を探求しています。	日本及び中国の都市・都市圏内部の地域構造の形成と変容について、地理学的な手法を用いて研究を行っています。		

主な卒業研究テーマ

- ・人を活かす良い会社作り—理想の企業像と組織文化からの考察
- ・公立高校専門学科制度の光と影
- ・京都・先斗町の歴史的景観保全をめぐる諸問題
- ・どうして人間は決断できるのか—フランクルの実存分析からの考察
- ・自己効力観・自尊感情が生徒に与える影響の考察—NPO法人D×Pのキャリア授業「クレッシェンド」を実例に
- ・地域の婚活支援事業と結婚・居住地選択の傾向から見る自治体の果たす役割—兵庫県加西市と兵庫県多可町の婚活支援事業を事例に—
- ・震災復興まちづくりと住民参加—神戸市長田区真野地区と野田北部地区を事例に—
- ・近代日本における変態の社会史
- ・主体性をめぐる本質主義と構築主義—エーリッヒ・フロムとジュディス・バトラーの比較からの考察
- ・デンマーク国際援助体制の背景にあるもの
- ・地方都市におけるLRTの可能性—コンパクトシティを実現するために—
- ・テレビのあり方—バラエティ番組の視点から—
- ・創造都市論の動向と諸問題
- ・自由という幸福、不確実という不幸—アンソニー・ギデンズとジグムント・バウマンの思想から
- ・商品化する「おもてなし」の問題点—タテ社会とヨコ社会の視点から
- ・未来社会を予想する力
- ・他者と共に自助する防災—兵庫県佐用町の台風9号水害から—
- ・日本型グリーンツーリズムの可能性—都市と農村の交流を通した活性化に向けて—
- ・国際開発におけるスポーツの有用性—教育活動のとしてのサッカーの可能性
- ・大学生の居場所に関する考察—インターネット上のコミュニティに着目して—
- ・後期近代におけるボードリヤールの消費社会の理論
- ・学校給食の変容と生権力
- ・六甲山地域の開発と活性化
- ・アメリカの公共図書館—市民が支える公共財の在り方—
- ・都市近郊における地域コミュニティの形成に子どもが果たす役割—奈良県香芝市立二上小学校校区を事例に—
- ・貧困者の幸福感-フィリピンにおける貧困層の「心の豊かさ」とは

あなたの思い描く充実した大学生生活が送れるコースです。

伊藤 圭紀 さん(社会環境論コース4年生)

私が社会環境論コースに所属してまず痛感した事は、思考することの大切さです。本コースの授業は、少人数制が多く、先生から学生の意見を問われたり、グループディスカッションを通して学生間で議論を繰り広げたりする機会が多々あります。その時に求められるものが、思考する力です。思考とは、知識とは異なり、考えを巡らせる行動のことを言います。本コースの授業はエネルギーで頭を使いますが、その分、学生間の距離が近く、コース全体がとても仲が良いです。また先生方は気さくな方が多く、小さな質問から人生相談まで話にのっていただけます。また、私は教員免許取得に向けて勉強中ですが、海外の文化にどうしても触れてみたいという夢をもち、現在、アイルランドで語学を学んでいます。こちらの生活は、毎日が新発見の連続で非常に満足しています。このように、自由に自らの意思で大学生活をアレンジできることはこの学部の魅力だと思います。

学生からのメッセージ



発達支援論 コース

Course Keyword 【コースキーワード】

- 子どもと家庭の支援
- ジェンダー・イクイティ
- 成人学習
- ボランティア
- 社会的排除
- 持続可能な社会づくり

4学科横断のユニークなコースで、 鋭い問題意識を幅広い観点から鍛える

発達支援論コースは、発達科学部の特色を生かすことを目的に作られました。どの学科からでも3年次から、実践的研究に関心のある学生なら進むことができ、自分の関心に基づいて他のどのコースの授業でも受講することができます。卒業論文にその成果をまとめることが目的です。卒論研究に当たっては、人間発達環境学研究科に設置されたHCセンター（ヒューマン・コミュニティ創成研究センター）の活動と連動しながら、アクション・リサーチという、実践現場に足をおいた研究方法の指導を受けることができます。HCセンターでは、「ヘルスプロモーション」、「ジェンダー研究・学習支援」、「子ども・家庭支援」、「労働・成人教育支援」、「障害共生支援」、「ボランティア社会・学習支援」といったテーマで研究プロジェクトを実施しています。これらの多様なプ

ロジェクトに参加しながら、鋭い問題意識を養っていきます。たとえば、HCセンターでは、アクション・リサーチに取り組むために大学外の市街地に、のびやかスペース「あーち」というサテライト施設をつくっています。ここでは「子ども・家庭支援」と「障害共生支援」の2つの部門がさまざまなプログラムを展開しています。毎年、この施設を利用して卒論に取り組む学生がいます。また、「ボランティア社会・学習支援」部門が支援している震災復興のまちづくりに関わりながら卒論に取り組む学生もいます。このコースで学ぶためには、社会の動きに目を向けその成り行きに関心をもっていることや、さまざまなアクティビティに自分から参加して、参加者の間をつないでいくような能動的な姿勢が必要です。

主なコース専門科目

- 発達支援論研究
- 発達支援論研究法
- 発達支援論演習（子ども・家庭支援論）
- 発達支援論演習（ボランティア社会・学習支援論）
- 発達支援論演習（障害共生支援論）

教員からのメッセージ



社会全体で子どもの育ちと 子育てを支援するシステムを考えよう

伊藤 篤 教授(子ども家庭福祉論)

私のゼミでは、「乳幼児から青年までの幅広い年齢層の子どもたちが生き生きと暮らしていける環境を地域や社会全体で創り上げていくために必要なことは何か」を研究したいと考えている学生が集っています。

3年次の後期から毎週設定されるゼミの時間では、各自が自分の関心や課題意識に関連する先行研究などの資料を読んで発表し、その内容をゼミ教員とゼミ生全員で検討します。こうした学習活動を繰り返したのち、4年次には「卒業研究(卒業論文)」のテーマを決めていきます。また、灘区役所旧庁舎にある大学サテライト施設(神戸市の地域子育て支援拠点のひとつ)をはじめとする地域の様々な児童福祉関連施設や子育て支援の現場にもかかわるといふ豊かな体験的学習も保障されています。このゼミを通して、「社会の中で子どもが育つことの価値」「親や地域の大人が子育てにかかわることの意味」について自分なりの考え方を形成していくことが期待されます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

伊藤 篤 教授	津田 英二 准教授	松岡 広路 教授
子ども家庭福祉論	生涯学習論, 障害共生支援論	生涯学習論, 福祉教育・ボランティア学習論
出産から青年期までの子どもの発達を支援する仕組みを、当事者である家庭と学校を含む公的資源およびNPOを含む地域資源との協働という視点から考えています。	障害の問題を社会の問題として捉え、社会的排除のない共生社会にどのように近づくことができるかということを実践的に追究する研究を行っています。	持続不可能な開発をしつづけてきた現代社会を変革するためのさまざまな市民活動・社会的事業・教育活動を対象に、その推進方策・原理を実践的に研究しています。

2015年度中に新しい教員が加わる予定です。



主な卒業研究テーマ

- ・不登校と不登校児の家族の家族療法による変化に関する考察
- ・母体体重に関する産後の不安を減らす試み
—やせ妊婦増加の視点から—
- ・子どもを対象とした野外活動におけるボランティアサブリダーの役割についての考察
- ・岸和田男女共同参画と岸和田だんじり祭りの関係についての一考察
- ・ボランティアが拓く学校内の脱学校の取組の可能性
—放課後の学習支援実践を通して—
- ・歴史的に見た演劇教育の発展と衰退—現代の普及に向けて—
- ・アスペルガー障害のある学生の高校から大学初年度にわたる支援についての一提言
- ・学童保育施設における健常児と障害児の関係の発展に関する一考察
- ・児童相談所におけるマンパワー不足問題
—児童相談所数・児童福祉数等の量的問題について
- ・性行為におけるジェンダーについての研究
—デンマーク・オーフス市の事例と聞き取り調査を通して—
- ・男性の育児休業取得促進のために
—スウェーデンの育児休業制度・企業対応・人々の意識を参照して—
- ・地域と【協働】するワークキャンプに関する一考察
—ワークキャンプ実践が未来への懸け橋となる事を願って—
- ・ゆとり教育をめぐるメディア報道の当事者的観点からの考察
—新聞記事に対する当事者へのインタビューを通して—
- ・障害者との関わりの中で生まれる支援者の変容と関係性の変容
- ・博物館の教育機能に関する考察
- ・学校の統廃合による地域住民への影響
- ・子どもの家庭内で形成される性別役割意識と将来の性別役割観の関係について
- ・ひきこもりの実態とひきこもりに対する社会の認識に関する研究

自由な学びの場で、「自分」とは何か、 本気で考えてみませんか

栗田 智美 さん(発達支援論コース4年生)

何のテーマを、どのような方法を使って、どのくらい頑張るのか。ここでは誰かに強制されることはありません。その自由さは決して楽なものではないけれど、自問自答を繰り返す中で少しずつ自分の問題意識が形になっている。そんなことにふと気づいたとき、そこには自分の成長を感じるたしかな喜びがあります。

支援論コースに集う人は、もっている文化こそ違えど、その違いを互いに楽しみながら、答えの分からない世界の中で人間が幸せに生きることができる社会について本気で考えているという点では、共通していると言えるでしょう。

社会を変革したいと思う人、実践的研究に興味がある人、学びを主体的に創造したい人、支援の本質について考えたい人、多角的な視点から社会問題を捉えたい人、自分の生き方について真剣に考えたい人、そしてかけがえのない仲間と出会いたい人にはぜひ、発達支援論コースをお勧めします。きっとここで学びを楽しめるはずです。

学生からのメッセージ



カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
学部共通科目	学部共通科目			
全学共通科目,全学共通基礎科目	全学共通科目,全学共通基礎科目			
学科共通科目	学科共通科目			
コース専門科目		コース専門科目		
卒業研究				卒業研究
全学共通科目	●教養原論 ●外国語科目 ●情報科目 ●健康・スポーツ科学			
学部共通科目	●発達科学への招待			
学科共通科目	【入学時の学科の学科共通科目を履修します】			
コース専門科目		●発達支援論研究	●発達支援論演習(ヘルスプロモーション論) ●発達支援論演習(子ども・家庭支援論) ●発達支援論演習(ボランティア社会・学習支援論) ●発達支援論演習(障害共生支援論) ●発達支援研究法	
		【2年で所属するコースのコース専門科目を履修します】	【発達科学部のすべての授業科目を履修することができます】	

主な進路・主な資格免許の取得状況

主な進路

2013年度	2014年度
・霧島酒造 ・春日井市職員 ・京都府教員(高校) ・和歌山県職員 ・神戸大学大学院 人間発達環境学研究科(1名) ・筑波大学大学院教育研究科	・アートチャイルドケア ・今西清兵衛商店 ・インテリジェンス ・ゼネラルパートナーズ ・ダイベア ・神戸大学大学院 人間発達環境学研究科(1名)

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

2013年度	2014年度
・幼稚園教諭一種免許状 ・小学校教諭一種免許状 ・中学校教諭一種免許状(数学) ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) ・高等学校教諭一種免許状(公民) ・高等学校教諭一種免許状(数学) ・学芸員	・高等学校教諭一種免許状(数学)

OB&OG INTERVIEW

社会福祉法人恵仲会
サンレジデンス湘南 勤務

伊藤 美友 さん
(2010年3月卒)



今の私は神戸大学での4年間があったからこそ

私は今, 神奈川県平塚市にある社会福祉法人で福祉用具の販売やレンタルの仕事をしながら, 人事やヘルパー2級講座の事務局など法人内の様々な仕事に関わらせてもらっています。また, 現在社会福祉士通信課程で社会福祉士の資格取得を目指して勉強中です。

大学時代は人間表現学科に所属し, 自由劇場という演劇部で4年間演劇をしていました。学科のみんなと卒業公演で舞台をやれたことは, 最高の思い出であると共に今の私の原動力となっています。発達科学部では本当にたくさんの人と出会い, たくさんのことを学べました。

私が現在の仕事に就こうと思ったのも, 所属していた発達支援論コースの院生と話をしている中で「どんな人でも集えるような『コミュニケーション』をつくりたいよね。」という話題で盛り上がったことがきっかけ。本当にそんな居場所づくりをしたいという思いが今の仕事に結びついています。将来はもちろん自分で『コミュニケーション』を作ってそこで演劇したいですね!

発達科学部

神戸大学ESD コース

Course Keyword 【コースキーワード】

- 持続可能な社会の構築
- 人権・平和・環境・開発・倫理
- アクションリサーチ
- 人間の変革可能性
- 新しい価値観の形成
- 未来への責任

専門的な13コースでの学びに加え,履修可能な補助カリキュラム

神戸大学ESDコースは,発達科学部・文学部・経済学部・農学部・国際文化学部・工学部・医学部の7つの学部が協働し運営している学部を超えた領域横断型のユニークなコースです。発達科学部の学生は主専攻に加えて選択できるコースとなっているため,サブコースと呼ばれています。

地球規模の環境破壊や,エネルギーや水などの資源保全の問題など,人々が現在の生活レベルを維持しつつ,次世代も含む全てのの人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため,国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことをESD(Education for Sustainable Development)といいます。

このコースは,3つの特徴を持っています。ESDに求められる課題の多様

性に対応し,貧困,平和,人権,倫理,健康など「持続可能な社会の形成」に重点をおいた各学部の特色を生かした多領域の学びが用意されています。次に,学生のみなさんは,地域社会の活動現場に出かけ,学外の人々と連携しながら実践活動への参画(アクションリサーチ)を通して,持続可能な社会や仕組みの問題性,解決の方向性を探究することになります。そして,関連科目を含め14単位を取得することで,卒業学位とは別に「ESDプラクティショナー」として認証を受けることができます。こうした特徴的な仕組みのなかで,個別の専門知識に偏らない複眼的な視点,実際の問題を解決する上で求められる組織・集団の調整能力,および問題を解決する意志とスキルを持った人材の養成を目標としています。

カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
基礎科目	●ESD基礎(持続可能な社会づくり) ●実践農学入門 ●ESD論(持続可能な社会づくり2)			
関連科目	●生涯スポーツ論 ●農と植物医科学入門 ●熱帯有用植物学 ●森林環境学入門 ●地球環境論 ●阪神・淡路大震災 ●総合科目I(ボランティアと社会貢献活動)	●子どもの発達 ●自然教育論 ●健康行動科学 ●場所の文化史 ●生活空間計画論1 ●生活環境緑化論1 ●環境人文学講義I ●環境人文学講義II ●環境NPO実践論	●社会コミュニケーション入門 ●経済地理学 ●食糧生産管理論 ●森林生態学 ●植物栄養学 ●ガバナンス論 ●バイオエシックス ●国際保健	●感性表現論2 ●国際開発論 ●環境植物生態学 ●エコロジー論 ●メディア論 ●生涯発達心理学 ●森林保護学 ●水文学 ●国際関係論 ●都市地域計画 ●合意形成論 ●災害保健
フィールド演習科目	●ESD演習I(初期体験実習)	●ESD演習I(環境発達学) ●ESD演習I(環境人文学) ●ESD演習I(環境経済学) ●ESD演習I(兵庫県農業環境論)	●ESD演習II(環境発達学) ●ESD演習II(環境人文学) ●ESD演習II(環境経済学)	●ESD演習II(実践農学) ●ESD演習II(IPW統合演習)
総合実践科目			●ESD実践論	

「豊かな経験」は, 人生の成功 良好な社会を導くエッセンスとなる。

江本 直子 さん(人間表現学科表現創造論コース4年生)

1年生最初の頃,「自分が目指すものは?大学で学び得るものが違うのではないか?」と常日頃,思っていました。1年生後期に,たまたまESDサブコースについてのパンフレットを目にする機会があり,学部を超えた幅広い領域で学べ,地域社会の現場で実践的活動を行っていくという内容に,「これだ!」と思わず叫ぶほどでした。そして,自分のコースの授業とのバランスを考え,無理なく取っていかうと思いました。

様々な授業は,幅広い知識を身につけるだけではなく,地域に直接出向いて,自分たちで問題点を考えリサーチし,地域の人たちと交流することで,地域を肌で感じることができました。どの授業も新鮮に思え,楽しく本当に勉強になりました。

これらの授業での経験で,グループ行動での協調性,問題点を解決する為のスキル,自分の考えを人に伝える力を身につけることができたと思います。

このことは,今から進むべき道への大きな自信,力になると思います。

学生からのメッセージ

